

戸木田嘉久教授の略歴と著作目録

略 歴

1924年3月30日	福岡市に生まれる
1941年3月	福岡商業学校卒業
1943年9月	福岡高等商業学校卒業
1943年10月	東亜燃料工業株式会社入社
1944年10月	九州帝国大学法文学部経済学科入学
1945年10月	東亜燃料工業株式会社退社
1947年9月	九州帝国大学法文学部経済学科卒業
1947年10月	財団法人九州経済調査協会調査部勤務
1948年11月	財団法人九州経済調査協会退職
1948年11月	九州産業労働科学研究所勤務（理事），事務局長
1962年3月	九州産業労働科学研究所退職
1962年4月	立命館大学経済学部助教授
1965年4月	立命館大学経済学部教授
1969年度	立命館大学学生部長
1972・73年度	立命館大学人文科学研究所所長
1976・77年度	立命館大学経済学部長，経済学研究科長
1979年度	立命館大学教学担当常務理事
1984年3月	経済学博士（立命館大学）
1985・86・87年度	立命館大学副学長（教学担当常務理事）
1989年3月	立命館大学経済学部定年退職

学 会 活 動

社会政策学会幹事，土地制度史学会評議員を歴任，現在に至る
 経済理論学会会員，日本科学者会議会員

著 書

- 『供出制度の農家経営に及ぼす影響の調査』 九州経済調査協会 1947年
 『農家租税負担の研究』 九州経済調査協会 1949年
 （以上『九経調研究業績 総目録』1972年6月による，現物不明）
 『戦後における九州石炭産業と合理化』 p.1～409 『研究報告』 No.19
 九州経済調査協会 1952年 3月
 『戦後における九州石炭産業と合理化（抄録）』 p.1～22 『研究報告』 No.24
 九州経済調査協会 1953年 1月
 『戦後九州における過剰人口問題——その流動形態を中心にして——』
 p.1～153 『研究報告』 No.41 九州経済調査協会 1954年 5月
 『首切りはかく行われた——希望退職の分析——』 p.7～30
 日本炭鉱労働組合九州地方本部 1954年
 『九州地方における鉄鋼産業の労働力構成』
 （鉄鋼労連第7回定期大会1955年3月28—31日）
 日本鉄鋼産業労働組合，同 九州地方委員会
 九州産業労働科学研究所 1955年
 『中小炭鉱失業者の生活実態調査（第一次中間報告）』 p.1～55
 日本炭鉱労働組合九州地方本部・九州産業労働科学研究所編 1955年 5月
 『失業者——カンテラは消えず——』
 日本炭鉱労働組合九州地方本部・九州産業労働科学研究所編 p.1～313
 五月書房 1955年12月

- 『八幡地区における下請中小企業の状態』八幡地区労働組合協議会 p.1~29
九州産業労働科学研究所 1955年12月
- 『杵島炭鉱の経理分析——「経営白書」批判と資料——』p.1~24
杵島炭鉱労働組合給与対策部 1956年12月
- 『学習テキスト』その1
- 「自由化政策の下における炭鉱合理化の本質と三池闘争」p.5~19
炭労三池闘争現地指導委員会、三池炭鉱労働組合 1960年10月
- 『再提案提案理由に対する経理面からみた反論と問題点及び
昭和30年~35年決算書』大辻炭鉱労働組合 1961年
- 『会社提示案に対する分析と反論』宇部興産炭鉱労働組合 1961年1月
- 『労働組合はどう変わるか——三池闘争をへて——』p.1~294
三一書房 1961年2月
- 『答申案と会社の方針 われわれのたたかひのみち（討議資料）』p.1~68
宇部興産炭鉱労働組合 1961年12月
- 『労働問題』第一分冊・第二分冊 p.1~73 玄文社 1964年
- 『学習 現代の合理化読本』労働旬報社 1964年4月
- 『現代の合理化と労働運動』p.1~510 労働旬報社 1965年3月
- 『合理化問題入門』労働新書 p.1~190 労働旬報社 1959年12月
- 『労働問題』（講義テキスト）p.1~214 雄渾社 1970年
- 『「合理化」のはなし』『青年のための社会科学15』p.1~168
日本青年出版社 1972年2月
- 『社会変革と労働組合運動』p.1~329 大月書店 1974年6月
- 『労働組合論』（講義案 第一分冊）p.1~136 玄文社 1975年
- 『働くものと部落問題』p.1~279 部落問題研究所 1976年2月
- 『現代資本主義と労働者階級』p.1~450 岩波書店 1982年1月
- 『ME「合理化」と労働組合』p.1~334 大月書店 1986年7月
- 『九州炭鉱労働調査集成』p.1~440 法律文化社 1989年3月
- 『戸木田嘉久著作集』全五巻

- 第1巻『日本の労働組合運動』300p 労働旬報社 1988年12月
 第2巻『賃金「合理化」と労働運動』320p 労働旬報社 1989年2月
 第3巻『労働運動と国民生活』300p 労働旬報社（刊行予定）1989年4月
 第4巻『戦後史における労働運動』300p
 労働旬報社（刊行予定）1989年6月
 第5巻『労働運動の理論的諸問題』300p
 労働旬報社（刊行予定）1989年8月

編 著 書

- 『現代の労働組合運動3 搾取の新しい形態と闘争の現段階』
 「現代の労働組合運動」編集委員会編
 「発達した資本主義国における労働組合運動の現段階」p.2～110
 大月書店 1972年12月
- 『巨大企業における労働組合7 現代の労働組合運動』同上編
 「日本における『企業別組合』の評価と展望」p.1～56 大月書店 1976年11月
- 『現代社会政策』吉村朔夫、戸木田嘉久編（有斐閣双書）
 「労働組合と労働・社会政策——経済的民主主義への課題と
 関連させて——」p.173～198 有斐閣 1977年6月
- 『堀江正規著作集 第4巻』同著作集編集委員会編
 「『資本主義的合理化』解説」p.269～301
 戸木田、北田、吉井による、戸木田の責任執筆 大月書店 1977年7月
- 『工場調査：巨大工場と労働者階級（上・下）』
 向笠良一、戸木田嘉久、木元進一郎、高木督夫編
 「右翼的潮流の社会経済的基盤の動揺」p.55～100（上巻）
 戸木田嘉久、芹沢寿良共同執筆 新日本出版社 1980年11月
- 『講座 今日日本資本主義』刊行パンフレット
 「座談会 現代日本資本主義分析に新風を——

- 『講座 今日の日本文資本主義』の刊行をめぐって」 p.2～15
 (戸木田, 中村, 暉峻, 宮本) 大月書店 1981年7月
- 『講座 今日の日本文資本主義』第7巻『日本文資本主義と労働者階級』
 「戦後日本文資本主義の蓄積過程と搾取諸形態の展開」 p.9～58
 大月書店 1982年4月
- 『日本の労働組合運動』第1巻『労働組合運動の根本問題』
 「労働組合運動は現代の危機にどうたちむかうか」 p.7～52
 日本の労働組合運動編集委員会(第1巻編集責任 戸木田)
 大月書店 1984年10月
- 『日本の労働組合運動』第1巻『労働組合運動の根本問題』
 「第1巻の課題と構成」 p.1～6 大月書店 1984年10月
- 『現代の階級構成と所得分配』大橋隆憲先生追悼論文集
 坂寄俊雄, 戸木田嘉久, 野村良樹, 野沢正徳編
 「『資本論』と現代賃金論に関する覚書」 p.36～56 有斐閣 1984年9月
- 『日本の労働組合運動』第5巻『労働組合組織論』
 「『日本の労働組合運動』完結にあたって」 p.315～318
 (同編集委員会名) 大月書店 1985年6月
- 『基本的人権と労働者』 塩田庄兵衛, 戸木田嘉久編
 「現代の基本的人権と労働組合運動の課題」 p.245～285
 法律文化社 1985年10月
- 『わたしの選択, あなたの未来
 ——プロレタリアートへのメッセージ18——』 367p
 (同編集委員会, 戸木田嘉久, 木津川計, 本多淳亮,
 村上恭介, 寿岳章子, 小林康二)
 労働旬報社 1986年6月

共 著

「企業整備＝合理化と失業」

『石炭産業平和再建会議』 p.31～49 日本炭鉱労働組合編 1953年7月

「北九州水害の実態をつく——ふるさとの山河を荒らす政治——」 『日本経済
四季報』第2集（日本経済調査会編） p.297～310 大月書店 1953年9月

「闘いの記録・三井三池」

『日本経済四季報』第3集（日本経済調査会編） p.260～273

大月書店 1953年12月

「九州にみる労働力移動と過剰人口問題」

『日本経済四季報』第4集（日本経済調査会編） p.244～259

大月書店 1954年3月

「恐慌下の筑豊炭田」

『日本経済四季報』第5集（日本経済調査会編） p.236～249

大月書店 1954年7月

「北九州における中小企業労働者の闘い——平和経済への転換をめざして——」

『日本経済四季報』第6集（日本経済調査会編） p.238～255

大月書店 1954年9月

「石炭産業の技術的合理化と労働問題」

『日本経済四季報』第14集（日本経済調査会編） p.155～139

大月書店 1956年8月

「戦後九州の労働市場と過剰人口」

『九州経済の現状』 p.411～472 九州経済調査協会 1956年10月

「杵島闘争の評価と問題点——新しい前進のために——」

『敵よりも一日長く、統一と団結の九十六日』 p.343～356

杵島炭鉱労働組合 1958年4月

「炭鉱低賃金の構造的特質と搾取機構の特徴（戦後）」

- 『賃金研究会の作業について』（堀江，黒川，正田，戸木田，吉村，三好）
（「賃金綱領の具体的内容の骨子」の第5章） 1958年
- 「炭礦失業の諸問題」
『生産性向上と社会政策』社会政策学会編 p.99～140 有斐閣 1958年10月
- 『国鉄志免鉱業所払い下げ問題の批判と提案（調査報告書）』
（共同執筆・狭間源三，鈴木正里，正田誠一，戸木田嘉久）p.1～59
国鉄労働組合 1958年10月
- 「恐慌の進展と炭鉱労働運動の現段階」
『日本経済四季報』第23集（日本経済調査会編）p.3～21
大月書店 1958年11月
- 『石炭資本の歴史的な性格と合理化の資本家的課題』
『長期政策委員会資料』No.17
日本労働組合総評議会 長期政策委員会 1959年
- 「住友独占系に列化された地方大手・杵島闘争の問題点」
『炭鉱合理化の実態と労働者の闘い(上)』p.4～62
日本労働組合総評議会 長期政策委員会 1959年
- 「古谷鉱業と美豊炭鉱の経理状況について」
『美豊炭鉱調査報告書』（戸木田嘉久執筆）p.11～18
炭労美豊炭鉱調査団 1960年7月
- 「経理上の問題点に関する論証資料」
「古河大峰炭鉱調査報告書」（調査団・野口，東海林，田中，光永，
田原，中野，松下，正田，戸木田）1961年
- 「安定経営をめぐるの原価分析と今後の想定」
『大正鉱業調査報告書』p.12～28 日本炭鉱労働組合 1961年9月
- 「世界労働組合運動の歴史」
『学習のすすめ』第2集 p.59～99
自治労大阪衛星都市職員組合連合会 1963年6月
- 「現代のエネルギー産業問題」

- 『岩波講座 現代9 現代の経済』 p.77～120 岩波書店 1964年4月
「部落問題と炭鉱問題」
- 『日本の諸科学と部落問題』第2回部落問題研究者全国集会報告 p.91～97
部落問題研究所 1964年7月
「戦後史のなかでの労働組合運動」
- テレビ大学講座 テキスト(11) 昭和40年第2学期 p.78～83
立命館大学・読売テレビ放送 1965年4月
「戦後日本における階級闘争の概観」
- 『現代日本とマルクス主義1 日本資本主義分析』 p.217～298
青木書店 1966年2月
「失業者の典型的な二事例」
- 『北九州・筑豊 炭鉱閉山地帯失業者調査中間報告
——田川市郡失業者の諸類型——』第5章第1節執筆
『大原社会問題研究所資料室報』特別号 No.119 p.41～51
法政大学大原社会問題研究所 1966年5月
「炭鉱労働者と私」
- 『世に出ていく君たちに』 p.80～92 汐文社 1966年6月
「現代帝国主義と労働者階級」
- 『マルクス経済学体系 III 帝国主義論』 p.250～254 1966年9月
「日本資本主義と労働における差別」
- 『現代日本の社会問題, 3 支配と差別の社会問題』 p.245～320
汐文社 1967年3月
「現段階における『合理化』の特質——分析の方法論的視角——」
- 『合理化と労働者階級』社会政策学会年報第14集 p.3～32
御茶の水書房 1967年6月
「労働者の暮らし」
- 『生活のなかの経済学』 p.117～139 峯書房 1968年5月
「日本の労働組合——その過去・現在・未来——」

- 『労働組合運動の理論① 労働組合の役割』堀江正規責任編集 p.93～168
大月書店 1969年 9月
- 「序・現代日本の独占企業1」
『日本の独A企業』 p.5～58 新日本出版社 1969年12月
- 「住友金属工業株式会社」（共同執筆）
『日本の独占企業1』独占分析研究会 p.127～158 新日本出版社 1969年12月
- 「決定権への挑戦——意志決定と階級——」
『科学としての経済学 経済学基礎セミナー1』 p.166～179
有斐閣 1970年 4月
- 「三井鉱山株式会社」（野村秀文氏と共同執筆）
『日本の独占企業3』独占分析研究会編 p.11～66 新日本出版社 1970年 7月
- 「株式会社朝日新聞」
『日本の独占企業5』独占分析研究会編 p.15～74 新日本出版社 1971年 2月
- 「炭労」
『日本の産業別組合』岡崎三郎他著 p.21～49 総合労働研究所 1971年 2月
- 「戦後変革と大衆闘争」
『講座 日本の歴史8 日本帝国主義の復活』 p.91～129
歴史学研究会・日本史研究会編 東京大学出版会 1971年 3月
- 「現代日本の都市問題」
『講座・現代日本資本主義』第2巻『経済』 p.259～304
青木書店 1973年 5月
- 「戦後日本資本主義と労働者階級——労働者の賃金・労働条件と生活——」
『現代 経済学入門』 p.277～306 峯書房 1974年 9月
- 「特別講演 フランス労働総同盟（CGT）の組合員教育」
『転機にたつ労働組合運動と統一戦線』 p.24～33
統一労組懇主催“秋の学習交流大集会”の記録
統一戦線促進労働組合懇談会 1976年 1月
- 「現段階における『合理化』の特質——分析の方法論的視角——」

【合理化と労働者階級】 p.3～32

社会政策学会年報第14集

御茶の水書房 1976年6月

「労働貴族論」

【新マルクス経済学講座】第6巻【戦後日本資本主義の階級構成】

（第2編 戦後日本の階級構成 第5章労働者階級の内部構成E）

p.202～215

有斐閣 1976年6月

「現段階における階級闘争の性格と展望」

【新マルクス経済学講座】第6巻【戦後日本資本主義の階級構成】

（第3編 諸階級の組織と運動・終章） p.367～394 有斐閣 1976年6月

「基調講演(1)国民的危機と労働組合運動——統一戦線・経済民主主義をどう実現するか——」

【転機にたつ労働組合運動と統一戦線】 p.4～15

統一労組懇主催 第2回“秋の学習交流大集会”の記録

統一戦線促進労働組合懇談会 1977年1月

「労働運動と部落問題」

【部落問題の学習 III 国民の権利】 p.155～175

部落問題研究所 1977年4月

「〈記念論文〉自治体労働組合の基本的立場——枚方市職労の30周年によせて——」

【枚方市職労の歩んだ道〈二十五年小史〉】 p.155～172

枚方市職員労働組合 1977年8月

「現代日本の労働者状態と社会保障要求——賃金の国際比較をつうじて——」

【労働者のくらしと社会保障】 角田豊，真田是編

（総編集 坂寄俊雄，小倉襄二，角田豊，真田是）

選書【現代の生活と社会保障】 p.48～78

法律文化社 1977年12月

「占領下の国家権力」

【日本史(10) 現代】 大江志乃夫編 有斐閣新書 p.159～187

有斐閣 1978年3月

「民主的経済政策の基本性格と労働者階級」

『大企業の営業秘密』岩尾裕純編 p.286～326 新日本出版社 1978年 5月

「統一戦線運動と社会保障闘争」

『社会保障と人権』窪田隼人, 坂寄俊雄編 p.195～221 同文館 1978年 5月

「経済的民主主義と協同組合運動」

『生活協同組合と現代社会』坂寄俊雄編 p.3～38 法律文化社 1978年11月

「雇用・失業問題の展開過程」

『労働問題の今日的課題』坂寄俊雄, 塩田庄兵衛編 p.77～122

有斐閣 1979年 8月

「剰余価値論」

『マルクス『資本論』の研究』(上) p.224～279 新日本出版社 1980年 9月

「今日の経済危機と貧困化の新しい段階」

『現代の労働組合運動論講座——真の労働戦線統一への道——』

労働者教育協会編 p.59～93

学習の友社 1982年 8月

「資本主義社会と労働者階級」

『勤通大月報 第6期労働組合ニュース』No.1 p.8～15 1982年11月

「現代の『合理化』とその展開過程」

社会政策学会年報 第27集 p.3～15

御茶の水書房 1983年 5月

「『構造調整』政策と婦人労働」

1987『婦人白書』p.47～52 日本婦人団体連合会 ほるぷ出版社 1987年 9月

辞 典 関 係

『経済学辞典』大阪市立大学経済研究所

執筆項目 請負制, 苦汗制度

岩波書店 第1版 1965年

第1版(新版)1979年

『大月経済学辞典』経済学辞典編集委員会編

編集担当部分 労働問題, 社会問題(380項目)

- 執筆項目 労働組合，日本の労働組合，労働組合の組織形態
企業別組合，生産管理闘争 大月書店 1979年4月
『万有百科大辞典11，政治・社会』
- 執筆項目 三池争議 小学館 1973年12月
『事典・日本労働組合運動史』 編集委員会世話人 戸木田，黒川，辻岡，田沼
- 執筆項目 はじめに
炭鉱「合理化」と三池闘争
「合理化」論の諸潮流
軍事費を削りくらしと福祉と教育の充実を 大月書店 1987年7月
『社会学事典』 見田宗介，栗原彬，田中義久編
- 執筆項目 労働力，賃労働 弘文堂 1988年2月

雑誌・学会誌等掲載論文

- 「三井田川における希望退職者の分析(1)——闘争批判の起点として——」
『月刊炭労』 No.49 p.1~3 日本炭鉱労働組合 1953年11月
- 「希望退職者の分析(2) 三井田川と杵島大鶴の場合」(川端久夫と共同執筆)
『月刊炭労』 No.50 p.16~21 日本炭鉱労働組合 1953年12月
- 「経済不況と労働者」
『新聲』 No.48 p.2~6 国鉄労組志免支部 1954年6月
- 「低賃金政策と職階制ベース賃金」
『新聲』 No.49 p.12~15 国鉄労組志免支部 1954年10月
- 「炭鉱労働者と失業反対闘争」
『国民』 第6号 p.27~33 国民社 1954年10月
- 「戦後九州における相対的過剰人口問題——その流動形態を中心に——」
『九州経済統計月報』 Vol.9, No.3 p.1~11 九州経済調査協会 1955年3月
- 「炭鉱地帯における失業問題」

- 『経済評論』第4巻第4号 p.77～87 日本評論新社 1955年4月
「九州における中小炭鉱失業者の状態——九州炭労，九州産労『中小炭鉱失業者調査』より」
- 『国民の科学』第7号 p.31～39 民主主義科学者協会 1955年9月
「アメリカ式労務管理と炭鉱労働者」
- 『月刊 炭労』第66号 p.2～15 日本炭鉱労働組合 1955年11月
「炭鉱合理化と労働者」
- 『旬刊 石炭通信』No.525 p.26～32 西日本石炭通信社 1956年1月
「現在の4,800万トン増産はどのような体制ですすめられているか」
- 『調査と資料』第9号 p.10～17 日本炭鉱労働組合 1957年3月
「戦後炭鉱における技術合理化——労働過程の再編と搾取の強化——」
- 『調査と資料』第12号 p.18～25 日本炭鉱労働組合 1957年8月
「日経連の『賃金政策』批判」
- 『ぼたはら』No.7 p.6～16 宇部興産炭鉱労働組合 1957年12月
「最近の資本蓄積と雇用問題」
- 『経済評論』7巻1号 p.57～66 日本評論新社 1958年1月
「“不況”は資本家側の宣伝か」
- 『学習の友』通巻55号 p.42～47 労働者教育協会編 学習の友社 1958年5月
「戦後における炭鉱低賃金の構造と機構」
- 『炭労「賃金綱領」作成のための基礎作業として』p.1～20
日本炭鉱労働組合 1958年6月
「生産性向上運動と労働運動——労働運動の当面する問題点」
- 『労働法』第30号 p.19～35 労働法学会研究所 1958年12月
「炭鉱合理化の現段階と労働運動」
- 『学習の友』通巻63号 p.56～61 学習の友社 1959年1月
「炭鉱失業の現状と問題点」
- 『月刊 炭労』No.102 p.34～46 日本炭鉱労働組合 1959年1月
「炭鉱労使関係とその底流」

- 【月刊 石炭経済】 Vol.3 No.3 p.12~19 石炭経済研究所 1959年 3月
「国鉄・志免炭鉱」
- 【経済評論】 8巻6号 p.121~132 日本評論新社 1959年 6月
「炭鉱危機と社会化問題」
- 【月刊 石炭経済】 Vol.3 No.8 石炭経済研究所 1959年 8月
「志免炭鉱 うずまく払下問題を現地に見る」
- 【月刊 労働問題】 No.15 p.46~52 日本評論新社 1959年 8月
「石炭資本の歴史的な性格と合理化の資本家的課題」 p.1~12
日本労働組合総評議会 1959年 8月
- 「ヤマに働く人々①」
- 【エコノミスト】 8月25日号 p.48~51 毎日新聞社 1959年 8月25日
「ヤマに働く人々②」
- 【エコノミスト】 9月1日号 p.48~51 毎日新聞社 1959年 9月1日
「ヤマに働く人々③」
- 【エコノミスト】 9月8日号 p.46~50 毎日新聞社 1959年 9月8日
「ヤマに働く人々完」
- 【エコノミスト】 9月15日号 p.48~51 毎日新聞社 1959年 9月15日
「合理化の現段階と中小炭鉱労働者の闘い、(1)」
- 【月刊 炭労】 No.111 p.14~19 日本炭鉱労働組合 1959年 9月
「合理化の現段階と中小炭鉱労働者の闘い、(2)」
- 【月刊 炭労】 No.112 p.14~20 日本炭鉱労働組合 1959年10月
「合理化の現段階と中小炭鉱労働者の闘い、(3)」
- 【月刊 炭労】 No.113 p.30~43 日本炭鉱労働組合 1959年11月
「独占資本と中小資本——中小資本分析のための一つの覚え書——」
- 【思想】 No.428 p.44~59 岩波書店 1960年 2月
「ルポ 三井三池」
- 【経済評論】 第9巻第4号 p.106~114 日本評論新社 1960年 4月
「安保闘争と三池闘争」

- 調査と資料『おののうら』No.4 p.11～10
見島大之浦炭鉱労働組合 1960年 6月
- 「転換点に立つ炭鉱労働運動」
『旬刊 石炭石油通信』No.700 p.29～35 石炭通信社 1961年 1月
- 「『構造改革』論と労働組合運動」
『経済評論』第10巻第4号 p.96～108 日本評論新社 1961年 4月
- 「炭鉱災害の底辺」
『月刊 労働問題』No.36 p.66～69 日本評論新社 1961年 5月
- 「失業反対闘争の現段階」
『月刊 さんいち』第4巻第10号（通巻36号）p.11～13
三一書房 1961年10月
- 「北九州工業地帯の構造分析——その現状と方向——」
『経済評論』第10巻第11号 p.54～65 日本評論新社 1961年10月
- 「最低賃金制をかちとろう——統一路線をめざす北九州労働者」
『学習の友』通巻102号 p.6～13
（戸木田嘉久，原嘉彦共同報告）
学習の友社 1962年 3月
- 基調報告「合理化と労働運動——恐慌の下での労働者の闘い——」
「合理化と労働運動」特集 p.3～12
『勤労者教育』（別冊）（第二回働くもの 集会記念） 1962年 9月
- 「石炭危機の本質と石炭調査団の限界」
『立命館経済学』第11巻第4号 p.16～52 立命館大学経済学会 1962年10月
- 「『合理化』のなかの労働運動」
『学習の友』通巻109号 p.32～38 学習の友社 1962年10月
- 「＜今日の問題＞石炭調査団と役割と限界」
『経済セミナー』No.76 p.38～41 日本評論社 1962年11月
- 「合理化反対闘争と教宣活動」
『機関紙と宣伝』No.358 p.18～31 日本機関紙協会 1963年 2月
- 「現段階の『合理化』と労働運動——資本主義的『合理化』の歴史的

- 検討とあわせて——」
 【経済】（季刊）No.5 p.54～75 新日本出版社 1963年6月
- 「合理化と労働運動」
 【労働法律旬報】No.519 p.3～31 労働旬報社 1964年3月
- 「最近の資本蓄積と低賃金構造(上)」
 【立命館経済学】第13巻第3号 p.1～28 立命館大学経済学会 1964年8月
- 「最近の資本蓄積と低賃金構造(下)」
 【立命館経済学】第13巻第4号 p.68～88 立命館大学経済学会 1964年10月
- 「資本蓄積と低賃金構造——日本の低賃金は解消しつつあるか——」
 （シリーズ開放体制下の賃金問題(6)）
 【エコノミスト】10月6日号 毎日新聞社 1964年10月6日
- 「現段階の『合理化』と社外工＝請負組夫問題」
 （特集 ひん発する労働災害によせて）
 【賃金と社会保障】No.355 p.6～13 労働旬報社 1965年7月上旬号
- 「新貧乏物語——憲法と国民生活——」
 【部落】No.192 p.4～23 部落問題研究所 1965年8月
- 「労働災害や合理化とどうたたかうか」
 【学習の友】No.143 p.19～25 学習の友社 1965年8月
- 「現在の合理化の特徴と労働運動」
 【季刊 労働と教育】No.7 p.3～11 京都府民生労働部 1965年12月
- 「独占資本の運動と賃金闘争——その性格および諸闘争との関連」
 【経済】No.20 p.19～28 新日本出版社 1966年1月
- 「現段階の『合理化』と国家の政策」
 【経済評論】第15巻（通巻21号）第4号 p.8～20 日本評論新社 1966年3月
- 「労働者階級の革命的力を評価する」
 【別冊 エコノミスト】（「日本資本主義の体質と課題」）p.140～146
 毎日新聞社 1966年4月
- 「『産業革命』以前における石炭鉱業の形成——日本炭鉱労働者状態史の

ための覚書(1)」

- 『立命館経済学』第15巻第2号 p.1~58 立命館大学経済学会 1966年6月
 「現局面の『合理化』の特徴と闘いの方向」
 『国公労 調査時報』No.30 p.1~5
 日本国家公務員労働組合共闘会議 1966年8月
 「日本資本主義の原料問題と海外進出」
 『経済』No.27 p.35~51 新日本出版社 1966年8月
 「現代の権利闘争の性格とその課題 現段階の経済情勢からみた権利闘争」
 『労働法律旬報』No.611 p.5~10 労働旬報社 1966年10月
 「原料資源をめぐる日米関係——日本資本主義の原料問題と海外進出(Ⅱ)——」
 『経済』No.31 p.45~66 新日本出版社 1966年12月
 「炭労——その残した歴史的教訓——」
 『季刊 労働法』No.62 p.167~180 総合労働研究所 1966年12月
 「『合理化』と賃金闘争」
 『労働・農民運動』No.11 p.161~170 新日本出版社 1967年2月
 「戦後炭鉱労働運動の展開過程(1)」
 『立命館経済学』第16巻 第1号 立命館大学経済学会 1967年4月
 「経営分析 三井鉱山株式会社」
 『経済』No.38 p.190~202 新日本出版社 1967年6月
 「労働組合と研究集会活動 研究集会活動を労働組合の
 経済主義的利益に従属させてはならない」
 『住民と自治』No.50 p.12~21 自治体問題研究所 1967年7月
 「失業反対闘争の歴史的総括と展望——失業者と就業者の統一戦線——」
 『失業問題研究会報告草案(1)』p.15~59 全日本自由労働組合 1967年8月
 「鉄鋼労働者の労働と生活——八幡製鉄——」
 『経済』No.42 p.31~47 新日本出版社 1967年10月
 「国民生活と人権」
 『部落問題を国民大衆のものに』p.159~169

- 第16回全国部落問題夏期講座報告—— 部落問題研究所 1967年10月
「戦後炭鉱労働運動の展開過程(2)」
【立命館経済学】第16巻第5・6号 p.119～156
立命館大学経済学会 1968年2月
- 「失業反対闘争の歴史的総括とたたかいの方向(上)」
【学習】42号 p.8～29 全日本自由労働組合 1968年2月
- 「労働者と資本家はなかよくできるか？」
【学習の友】174号 p.19～25 労働者教育協会 1968年2月
- 「失業対策闘争の歴史的総括とたたかいの方向(下)」
【学習】44号 p.23～44 全日本自由労働組合 1968年3月
- 「『産業再編成』と雇用問題」
季刊【労働と経済】No.16 p.16～25 京都市民生労働部 1968年3月
- 「戦後労働組合運動の問題点——戦後日本労働組合運動史の
時期区分に関して——」
【日本史研究】第97号 p.126～142 日本史研究会 1968年4月
- 「『大型合併』の基本的性格と労働組合運動」
【賃金と社会保障】No.471 p.4～16 労働旬報社 1968年9月
- 「日本における世界企業の労働問題」
【経済評論】臨時増刊 p.43～55 日本評論社 1968年10月
- 「現代の労資協調路線」
【経済】No.58 p.123～131 新日本出版社 1969年2月
- 「資本家の春闘対策あの手この手」
【学習の友】186号 p.42～49 学習の友社 1969年2月
- 「労働組合と春闘・70年問題」
【経済】No.58 p.132～143 新日本出版社 1969年2月
- 「労働者階級の闘いと差別」
【部落】第267号 p.16～26 部落問題研究所 1970年臨時号
- 「70年代と労働組合 特集 春闘を巡る情勢 経済情勢研究会」

- 『経済』 No.70 p.17～30 新日本出版社 1970年 2月
「労働運動の右翼的『統一』論批判——右翼化の動向とあわせて——」
- 『経済』 No.74 p.103～119 新日本出版社 1970年 6月
「労働運動の右翼的『統一』論批判(下)
——労働組合運動の階級的統一への条件と展望——」
- 『経済』 No.76 p.110～119 新日本出版社 1970年 8月
「関西地方在住の炭鉱離職者の就労と生活状態に関する調査報告」
- 『立命館経済学』第19巻5号 p.71～131 立命館大学経済学会 1970年12月
「70年代の労働力政策」
- 『部落』第22巻第14号(通巻266号) p.20～29 部落問題研究所 1970年12月
「最近の賃金の動向と問題点」
- 『経済』 No.82 p.69～77 新日本出版社 1971年 2月
「現代の合理化と青年・中高音労働問題」
- 季刊『労働と経済』 No.28 p.13～18 京都府民生労働部 1971年 3月
「70年代『合理化』の新しい展開」
- 『学習運動』 No.167 p.1～8 学習の友社 1971年 5月
「国鉄『合理化』計画の基本的性格と反対闘争」
- 『経済』 No.86 p.209～216 新日本出版社 1971年 6月
「国家独占資本主義下の労働運動の課題はどう応えられたか
——総評1971年運動方針を読んで」
- 『賃金と社会保障』 No.572,573 p.41～45 労働旬報社 1971年 7月中・下旬
「特集 沖縄・安保問題と職場 70年代・資本との対決点～
沖縄協定で職場はどうなる」
- 『学習の友』 No.217 p.36～44 学習の友社 1971年 9月
「戦後日本資本主義の蓄積過程と相対的過剰人口——
労働力『不足』論の階級の本質——」
- 『経済』 No.88 p.18～37 新日本出版社 1971年 8月
「〔誌上公開〕夏の労働学校 第三講座 国家独占資本主義下の政策的諸問題

I 民主的変革への政策課題」

【労働・農民運動】 No.67 p.70～95 新日本出版社 1971年10月

「戦後の日本労働運動の特質(上)——主として戦前の

労働組合運動との対比において」

【人文科学研究所紀要】 第19号 p.1～25

立命館大学人文科学研究所 1971年12月

「関西地方在住の炭鉱離職者の就労と生活状態に関する調査報告(続)」

【立命館経済学】 第20巻第5・6号 p.106～155

立命館大学経済学会 1972年2月

「現段階の階級闘争——72年春闘の歴史的 position と展望——」（無署名）

【経済】 No.94 p.112～125 新日本出版社 1972年2月

「[第21回全国部落問題夏期講座報告] 第二講座 就職差別

労働政策と就職差別」

【部落】 第295号 p.60～69 部落問題研究所 1972年臨時号

「高等学校における進路保障の現状と課題——【進路調査】の総合まとめ——」

【部落】 No.288 p.72～73 部落問題研究所 1972年7月

「【実践的労働組合主義】 批判——統一拡大世話人会【統一路線

試案】の問題点」

【月刊 金属労働資料】 通巻102号 p.6～14

総評全国金属労働組合 1972年8月

「労働組合運動の政策的諸問題と闘争の基本方向」

【労働・農民運動】 No.77 p.21～25 新日本出版社 1972年8月

「[誌上公開] 第二回夏の労働学校 講義2 労働組合運動の当面している

政策的諸問題——現代の貧困にたちむかう日常的・制度的な、

および国民的な生活擁護闘争への問題提起として——」

【労働・農民運動】 No.79 p.32～55 新日本出版社 1972年10月

「現代帝国主義と労働組合運動——70年代国際労働組合運動の位置と展望——」

【経済】 No.102 p.161～185 新日本出版社 1972年10月

- 「日本資本主義の高蓄積と賃金の国民的相違」
 『経済』 No.107 p.18～47 新日本出版社 1973年 3月
- 「〔古典の学習〕 マルクス『労働組合・その過去、現在、未来』①」
 『学習の友』 No.237 p.82～87 学習の友社 1973年 5月
- 「〔古典の学習〕 マルクス『労働組合・その過去、現在、未来』②」
 『学習の友』 No.238 p.83～88 学習の友社 1973年 6月
- 「日本資本主義の高蓄積と賃金の国民的相違」
 『損保調査時報』 No.26 p.3～8 1973年 6月
- 「〔古典の学習〕 マルクス『労働組合・その過去、現在、未来』③」
 『学習の友』 No.239 p.83～88 学習の友社 1973年 7月
- 「現代労働運動とスト権闘争の位置」
 『労働法律旬報』 No.840 p.4～10 労働旬報社 1973年 9月上旬号
- 「部落問題基礎講座 3 労働運動と部落問題」
 『同和教育運動』 季刊 3 p.219～229 部落問題研究所 1973年秋季号
- 「〔第22回全国部落問題夏期講座報告〕 第二講座 労働者と部落解放
 労働者階級の闘いと差別」
 『部落』 第308号 p.68～86 部落問題研究所 1973年臨時号
- 「〔夏の労働学校〕 講義Ⅱ さまざまな反共主義・労資協調主義との闘争」
 『労働・農民運動』 No.92 p.68～101 新日本出版社 1973年10月
- 「差別攻撃を打破り職場を基礎に団結を」
 『学習の友』 No.244 p.49～56 学習の友社 1973年12月
- 「社会主義協会（向坂派）の『三池闘争』論批判」
 『経済』 No.116 p.78～94 新日本出版社 1973年12月
- 「労働貴族論にかんする若干の覚書」
 『立命館経済学』 第22巻 第5・6号 p.110～138
 立命館大学経済学会 1974年 2月
- 「〔社会民主主義経済論④〕 社会主義協会（向坂派）の『三池闘争』論
 批判(下)」

- 【経済】 No.119 p.102~119 新日本出版社 1974年 3月
 「労働戦線の統一と統一戦線」
- 【基礎コース教科書 下】 第6期 p.521~548 勤労者通信大学 1974年 3月
 「『特定政党支持』の誤りを切る」 戸木田嘉久, 池ノ谷吉春
- 【学習の友】 No.250 p.25~33 学習の友社 1974年 6月
 「民主的経済政策と労働者階級」
- 【経済】 No.123 p.18~33 新日本出版社 1974年 7月
 「自治体労働組合運動の歴史によせて——その過去・現在・未来——」
- 【人文科学研究所紀要】 第20号 p.1~30
 立命館大学人文科学研究所 1974年 8月
- 「翻訳 フランスにおける労働者とその家族の権利(1)——
 フランス労働総同盟『ポケット法律便覧』から——」
- 【立命館経済学】 第24巻第4号 p.75~106 立命館大学経済学会 1975年10月
 「フランス労働組合運動を見聞して」
- 【科学と思想】 No.19 p.172~186 新日本出版社 1976年 1月
 「フランス労働総同盟（CGT）の組合員教育」
- 【転機にたつ労働組合運動と統一戦線】 p.24~33
 統一労組懇主催“秋の交流大学習会”の記録
 統一戦線促進労働組合懇談会 1976年 1月
- 「翻訳 フランスにおける労働者とその家族の権利(2)——
 フランス労働総同盟『ポケット法律便覧』から——」
- 【立命館経済学】 第24巻第5・6号 p.206~239
 立命館大学経済学会 1976年 2月
- 「経済的民主主義への労働組合運動の役割——経済危機と労働組合運動——」
- 【経済】 No.142 p.62~87 新日本出版社 1976年 2月
 「翻訳 フランスにおける労働者とその家族の権利(3)——
 フランス労働総同盟『ポケット法律便覧』から——」
- 【立命館経済学】 第25巻第1号 p.154~182 立命館大学経済学会 1976年 4月

「経済民主主義と労働組合運動」

『学習の友』 No.273 p.48～56

学習の友社 1976年 5月

「戦後民主主義と働くものの権利」

『部落』 第348号（臨時号） p.24～37

部落問題研究所 1976年12月

「経済的危機と経済民主主義への道——労働組合運動との関連で——」

『立命評論』 No.56 p.29～48

立命評論編集部 1977年 2月

「私たちの暮す社会——労働組合一般基礎教育（第二段階）——」

『会報』 No.13 p.66～80

労働者教育協会 1977年 4月

「産業分析 戦後日本の鉄鋼産業（Ⅳ）——『合理化』攻撃と労働者の現状——」

『経済』 No.156 p.70～90

新日本出版社 1977年 4月

「現代資本主義と第二次大戦後の労働組合運動」

『労働組合運動』 p.67～105

勤労者通信大学教科書特別コース

勤学者通信大学 1977年 6月

「第2課の学習の重点」

『月報』 No.2 p.9～15

勤労者通信大学特別コース＝労働組合運動

勤学者通信大学 1977年 7月

「わが国賃金問題との共通点、相違点——『CGT』文書に寄せての問題提起」

『賃金と社会保障』 No.731 p.32～36

労働旬報社 1977年10月上旬号

「現代の労働組合の役割」

『学習の友』 別冊 学習テキスト p.72～80

〈労働者と労働組合〉

学習の友社 1977年10月

「経済的民主主義と協同組合運動」第9回生協研〈基調講演〉

『季刊 生協労連』 No.28 p.5～28

全国生協労働組合連合会 1978年 2月

「経済的民主主義と労働組合運動」

『全運輸時報』 No.68 p.113～130

全運輸省労働組合 1978年 3月

「特集 雇用・失業問題 最近の経済情勢と雇用・失業問題」

『建設一般』 No.19 p.10～15

建設一般全日本自由労働組合 1978年 7月

「経済民主主義とはなにか」

- 『学習の友』 No.302 p.64～73 学習の友社 1978年10月
「経済民主主義との関連で闘争をどう見直すべきか」
- 『学習の友』 No.302 p.75～76 学習の友社 1978年10月
「右翼的潮流の客観的基盤の動揺」
- 『労働運動』 No.157 p.34～49 新日本出版社 1979年1月
「第7課の学習の重点」
- 『月報』 No.8 p.2～9
勤労者通信大学第2期特別コース＝労働組合運動
勤労者通信大学 1979年2月
- 「『合理化』と社会政策」
- 『季刊 労働法』 別冊第5号 p.164～172 総合労働研究所 1979年5月
「国際比較・資本主義国の雇用・失業問題とわが国の特徴」
現代労働問題研究会編（執筆代表 戸木田嘉久）
- 『経済』 No.190 p.61～91 新日本出版社 1980年2月
「労働者階級の主体形成に関して」
- 『現代と思想』 No.40 p.68～69 青木書店 1980年7月
「今日の経済危機と貧困化・生活不安問題」
- 『経済』 No.197 p.2～29 新日本出版社 1980年9月
「貧困化の新しい段階と労働組合運動」
- 『学習の友』 No.326 p.70～77 学習の友社 1980年10月
「ナショナルセンターと地域組織」
- 『労働運動』 No.181 p.67～72 新日本出版社 1981年1月
「現代の労働者階級と変革主体形成——新しい労働者階級像を求めて——」
- 『科学と思想』 No.44 p.2～16 新日本出版社 1982年4月
「経済民主主義をめざす国民諸階級の障地構築」
- 『経済』 No.217 p.264～280 新日本出版社 1982年5月
「日本の政党の労働組合論」
- 『労働運動』 No.201 p.74～91 新日本出版社 1982年9月

- 「経済危機下の日本の労働者状態」
 『経済』 No.223 p.205～221 新日本出版社 1982年11月
- 「雇用・失業問題の新たな局面」
 『団体交渉のための賃金資料』 1983年版 p.236～239
 労働総合研究所 1982年12月
- 「『合理化』と民主的規制」
 『学習の友』 春闘別冊 p.82～86 学習の友社 1982年12月
- 「科学的社会主義の創始者たちの労働運動と現代(上)」
 『経済』 No.231 p.154～171 新日本出版社 1983年7月
- 「科学的社会主義の創始者たちの労働運動論と現代(下)」
 『経済』 No.232 p.125～154 新日本出版社 1983年8月
- 「84春闘 これが宣伝のポイント 闘争課題の4つの争点」
 『宣伝と組織』 No.145 p.12～16 日本機関紙協会京滋支部 1984年2月
- 「現代労働問題研究会 労働者階級の生活状態と意識状況」(執筆代表 戸木田)
 『科学と思想』 No.52 p.74～98 青木書店 1984年4月
- 「今日の労働組合運動とイデオロギー闘争——第九回学習組織
 全国連絡会議での基調講演——」
 『労働者教育協会会報』 No.49 p.1～17 労働者教育協会 1984年7月
- 「今日における経済闘争の役割」
 『労働運動』 No.226 p.68～77 新日本出版社 1984年9月
- 「現代の日本の労働組合運動」
 勤労者通信大学第8期労組コース p.117～158 勤労者通信大学 1984年11月
- 「今日の労働組合運動の課題」(国鉄革同全国学習交流集会 講演)
 『革同情報』 No.106 p.17～30 革同会議 1985年1月
- 「情報化と労働者階級——構成と状態の変化——」
 『経済』 No.257 p.18～41 新日本出版社 1985年9月
- 「独占の80年代戦略と未組織労働者」
 『労働運動』 No.240 p.42～49 新日本出版社 1985年11月

- 「労働組合運動にとって今なぜ国際連帯か？」
 【世界労働情報】第6号 p.2~7 統一労組懇国際委員会 1986年春季号
- 「戦後日本における階級構成の変化と労働者階級の状態(上)」
 季刊『科学と思想』No.60 p.98~125 新日本出版社 1986年4月
- 「戦後日本における階級構成の変化と労働者階級の状態(下)」
 季刊『科学と思想』No.61 p.85~125 新日本出版社 1986年7月
- 「日本独占資本の『強さ』の秘密」
 【経済】No.267 p.18~35 新日本出版社 1986年7月
- 「労働組合の性格と任務」
 【国公労調査時報】No.283 p. 1986年8月
- 「反核平和の課題と労働組合運動」
 【労働運動】No.249 p.34~43 新日本出版社 1986年8月
- 「スポーツ特別入試の実施にあたって」
 【大学時報】No.191 p.112~116 日本私立大学連盟 1986年11月
- 「産業構造転換政策に対する国民的運動の展望」
 【中小商工業研究】第9号 p.7~16
 中小商工業全国交流研究集会実行委員会 1986年12月
- 「資本蓄積論と現代の貧困化」
 【経済】No.276 p.49~70 新日本出版社 1987年4月
- 「寄生性・腐朽性つよめる大企業利潤——大企業の利潤をどう社会的に
 還元させるか——」
 【労働運動】No.257 p.188~199 新日本出版社 1987年4月
- 「円高不況・産業『空洞化』と宣伝視点」
 【宣伝と組織】No.184 p.8~15 日本機関紙協会京滋地方本部 1987年5月
- 「基礎理論 今日経済情勢と『帝国主義論』」
 【学習の友】No.405 p.44~53 学習の友社 1987年5月
- 「日本独占資本の新戦略と労働組合運動の課題」
 【建設】No.46 p.3~22

- 〈特集〉第14回幹部学校 東京土建一般労働組合 1987年9月
「基礎学習 政府・財界の21世紀戦略」
『学習の友』No.410 p.48～55 学習の友社 1987年10月
「深まる政治・経済の矛盾と危険な全民労連の役割」
月刊『労農のなかま』p.14～21 全農協労連 1987年10月
「政府独占の21世紀戦略と『連合』」
『労働運動』No.265 p.37～47 新日本出版社 1987年12月
「中林孝俊著『現代日本資本主義——再編・展開・現段階』を読んで」
『科学と思想』No.67 p.214～227 新日本出版社 1988年1月
「労働者階級は平和の戦士——労働組合と反核・平和闘争——」
『学習の友』No.417 p.64～71 学習の友社 1988年5月
「時短を要求闘争のカナメに——その重要性と宣伝視点——」
（対談）戸木田嘉久、吉田保（日本機関紙協会京滋地本事務局長）
『宣伝と組織』No.173 p. 日本機関紙協会京滋地方本部 1988年6月
「日本における労働者・国民の現状と闘い」
『労働運動』No.273 p.152～179 新日本出版社 1988年7月
「基礎学習 労働時間とは何か」
『学習の友』No.421 p.66～73 学習の友社 1988年9月
「ME革命は労働者階級を『変質』させるか」
『科学と思想』No.72 p.180～213 新日本出版社 1989年4月

シンポジウム・座談会

- 「戦後のくらしは良くなったのか——窮乏化論争をめぐる」
松川被告団にこたえる——（天達忠雄、戸木田嘉久、堀江正規）
『学習の友』53号 p.14～21 学習の友社 1958年3月
「〈シンポジウム〉日本における労働者階級の構成（第1回）」
（朝野勉、氏原正治郎、工藤晃、嶋津千利世、高木督夫、田沼肇、戸木田嘉久、

藤本武，堀江正規，渡辺武）

【経済】（季刊）創刊号 p.137～156

新日本出版社 1962年6月

「シンポジウム・報告の部 現代の権利闘争の性格とその課題

2. 現段階における経済情勢からみた権利闘争」

【労働法律旬報】No.611 p.5～10

労働旬報社 1966年10月15日

1. 問題提起（片岡昇）

3. 合理化に伴う権利侵害・組織破壊と労働法上の問題（本多淳亮）

4. 新安保体制下の治安政策の特色と労働者の権利（宮内裕）

「シンポジウム・討論の部 現代の権利闘争の性格とその課題をめぐって

——権利闘争の担い手の組織・権利意識」

I. 企業内組合と権利闘争・権利意識

II. 権利闘争の諸課題をめぐって

III. 権利意識の定着をめぐって

IV. 分裂，第二組合をめぐって

（宮内裕，本多淳亮，窪田隼人，戸木田嘉久，東中光雄，橋本敦，片岡昇）

【労働法律旬報】No.611 p.19～34

労働旬報社 1966年10月15日

「＜シンポジウム＞ 経営分析の成果と今後の課題(上)」

（一ノ瀬秀文，大沢督二，角瀬保雄，敷田礼二，戸木田嘉久，
戸田慎太郎，山口孝，湯浅克孝）

【経済】No.89 p.214～235

新日本出版社 1971年9月

「＜シンポジウム＞ 経営分析の成果と今後の課題(下)」

（一ノ瀬秀文，大沢督二，角瀬保雄，敷田礼二，戸木田嘉久，
戸田慎太郎，山口孝，湯浅克孝）

【経済】No.90 p.217～235

新日本出版社 1971年10月

「激動のなかの日本国家独占資本主義（報告 日本国家独占資本主義段階の
諸矛盾と労働組合運動）」

（池上惇，一ノ瀬秀文，小野一一郎，加藤睦夫，戸木田嘉久，山口良行）

【経済】No.93 p.34～72

新日本出版社 1972年1月

「73春闘の焦点をえぐる——政府・独占の労働政策と労働組合運動——」

(池ノ谷吉春, 黒川俊雄, 小島健司, 戸木田嘉久)

『経済』No.106 p.49~72

新日本出版社 1973年2月

「＜シンポジウム＞ 政治革新と74年春闘」

I. 国際労働運動高揚の諸条件

II. インフレ・石油危機下の74年経済

III. 74年春闘と民主連合政府綱領

(小森良夫, 戸木田嘉久, 林直道, 堀江正規, 山口良行)

『経済』No.118 p.14~45

新日本出版社 1974年2月

「＜シンポジウム＞ 民主的改革と労働組合運動」

I. 今日の情勢の特徴と労働者階級の状態

II. 民主的改革への政策提起

III. 政策実現の組織と戦術

(戸木田嘉久, 向笠良一, 田沼肇, 堀江正規, 辻岡靖仁, 司会・明野進)

『労働・農民運動』No.100 p.46~81

新日本出版社 1974年5月

「〔問答〕『特定政党支持』の誤りを切る」

(戸木田嘉久, 池ノ谷吉春)

『学習の友』No.250 p.25~33

学習の友社 1974年6月

「経済危機のもとでの労働組合運動」

(高木督夫, 中林賢二郎, 戸木田嘉久)

『労働運動』No.122 p.34~57

新日本出版社 1976年2月

「鼎談 経済危機の現段階と民主的打開の道」

青山四郎

工藤晃

戸木田嘉久 労働運動と民主的規制

『経済』No.150 p.2~51

新日本出版社 1976年10月

「労農同盟の今日的条件をさぐる(上)」

(内山昂, 小林節夫, 金田一正, 佐久間富郎, 暉俊衆三, 戸木田嘉久)

- 【経済】 No.149 p.146～168 新日本出版社 1976年9月
「労農同盟の今日の条件をさぐる(下)」
(内山昂, 小林節夫, 金田一正, 佐久間富郎, 暉俊衆三, 戸木田嘉久)
- 【経済】 No.151 p.209～231 新日本出版社 1976年11月
「シンポジウム 国鉄『再建』民主化闘争の課題」
(平井都士夫, 三上宏美, 武藤久, 徳沢一, 戸木田嘉久)
- 【労働法律旬報】 No.928・929 p.35～75 労働旬報社 1977年6月
「足もとからの民主的規制を」
(平田貞治郎, 小池信太郎, 徳沢一, 石沢賢二, 三堀雅志, 戸木田嘉久)
- 【学習の友】 No.302 p.74～91 学習の友社 1978年10月
「座談会・日本経済分析と労働者発達の諸条件——『講座・現代経済学』
全六巻の完結を記念して——」
(池上惇, 上野俊樹, 宇多直稀也, 小野秀生, 桜井香,
森岡孝二, 戸木田嘉久)
- 【経済科学通信】 35号 p.2～16 基礎経済科学研究所 1982年7月
「シンポジウム 長期不況下の日本経済と労働者階級」
(戸木田嘉久, 北田芳治, 山口孝, 木下英二)
- 【経済】 No.226 p.8～36 新日本出版社 1983年2月
「座談会 日本経済の現局面と84春闘」
(戸木田嘉久, 二宮厚美, 深見謙介, 春山明, 工藤光喜)
- (経済) No.238 p.77～108 新日本出版社 1984年2月
「シンポジウム 85年春闘をめぐる情勢の特徴と闘争の基本方向」
(春山明, 戸木田嘉久, 北田寛二, 大木一訓)
- 【労働運動】 No.230 p.209～239 新日本出版社 1985年1月
「大型シンポジウム(労働運動創刊20周年)いま問われる労働組合運動」
(戸木田嘉久, 春山明, 沖健一, 小林康二)
- 【労働運動】 No.246 p.62～99 新日本出版社 1986年5月

『九州産労資料月報』掲載の論文（無署名）

「1949年の九州労働運動——回顧と展望——」

『九州産労資料月報』 No.9 p.10～27 九州産業労働科学研究所 1950年 1月

「戦後賃金闘争の発展過程——官公労を中心として——」

『九州産労資料月報』 No.10 p.28～44 九州産業労働科学研究所 1950年 2月

「国鉄と三月闘争」

『九州産労資料月報』 No.11 p.29～44 九州産業労働科学研究所 1950年 4月

「わが国低賃金の実情とその基盤」

『九州産労資料月報』 No.12 p.1～24 九州産業労働科学研究所 1950年 5月

「九州における産業労働の実態」

『九州産労資料月報』 No.13 p.1～12 九州産業労働科学研究所 1950年 6月

「日立製作所の首切り攻撃を分析する」

『九州産労資料月報』 No.13 p.29～47 九州産業労働科学研究所 1950年 6月

「最近の賃金問題と賃金闘争」

『九州産労資料月報』 No.14 p.1～11 九州産業労働科学研究所 1950年 7月

「新協約にみる資本攻勢の重点 それと如何に闘うか——

日経連『新労働協約の実態調査』より——」

『九州産労資料月報』 No.15 p.5～35 九州産業労働科学研究所 1950年 8月

「三菱電気の新身分制度と昇格基準——職階制度につぐ第二次資本攻勢——」

『九州産労資料月報』 No.16 p.29～40 九州産業労働科学研究所 1950年 8月

「炭礦に於ける労働協約の現状」

『九州産労資料月報』 No.17 p.47～54 九州産業労働科学研究所 1950年10月

「炭礦に於ける労働協約の現状 その2」

『九州産労資料月報』 No.18 p.34～53 九州産業労働科学研究所 1950年12月

「退職金の性格とその組立て方」

『九州産労資料月報』 No.18 p.95～100九州産業労働科学研究所 1950年12月

- 「退職金の性格とその組立て方 その2」
 『九州産労資料月報』No.19 p.45~52 九州産業労働科学研究所 1951年1月
- 「炭礦に於ける労働協約の現状 その3」
 『九州産労資料月報』No.20 p.56~62 九州産業労働科学研究所 1951年2月
- 「炭鉱の賃金闘争はいかに闘われたか」
 『九州産労資料月報』No.21 p.3~20 九州産業労働科学研究所 1951年3月
- 「朝鮮戦争は日本経済に何をもたらしたか」
 『九州産労資料月報』No.22 p.1~14 九州産業労働科学研究所 1951年4月
- 「資本家を縮みあがらせた港湾スト」
 『九州産労資料月報』No.23 p.51~60 九州産業労働科学研究所 1951年5月
- 「朝鮮の和平によって日本経済はどうなるのか？」
 『九州産労資料月報』No.24 p.1~8 九州産業労働科学研究所 1951年7月
- 「炭鉱の賃金闘争はどう進められているか」
 『九州産労資料月報』No.25 p.3~10 九州産業労働科学研究所 1951年8月
- 「賃金体系はいかに改悪されてきたか——日立製作所——」
 『九州産労資料月報』No.25 p.11~20 九州産業労働科学研究所 1951年8月
- 「九州産労『第23回研究会』の報告と討論——秋季賃上げ闘争
 前進のために——」
 『九州産労資料月報』No.26 p.37~53 九州産業労働科学研究所 1951年9月
- 「九州産労『第24回研究会』の報告と討論——能率給に関する諸問題(1)——」
 『九州産労資料月報』No.27 p.3~18 九州産業労働科学研究所 1951年10月
- 「九州産労『第23回研究会』の結語に対する補足
 ——『職階給の本質』について——」
 『九州産労資料月報』No.27 p.19~22 九州産業労働科学研究所 1951年10月
- 「炭鉱賃金闘争の記録——炭鉱労働者は先頭に立った——」
 『九州産労資料月報』No.28 p.1~26 九州産業労働科学研究所 1951年11月
- 「九州産労『第24回研究会』の報告と討論 能率給に関する諸問題(2)
 ——保障給附能率給——」

- 『九州産労資料月報』No.29 p.10～22 九州産業労働科学研究所 1951年12月
「進展する日本再軍備」
- 『九州産労資料月報』No.30 p.1～54 九州産業労働科学研究所 1952年1月
「高松におけるカッペ採炭の実情——基準能率は引上げられ、賃金は低下した——」
- 『九州産労資料月報』No.32 p.1～7 九州産業労働科学研究所 1952年3月
「総同盟の『賃金闘争方針』と総評の『賃金綱領』」
- 『九州産労資料月報』No.33 p.42～45 九州産業労働科学研究所 1952年4月
「石炭産業の合理化に関する答申とその批判」
- 『九州産労資料月報』No.34 p.27～42 九州産業労働科学研究所 1952年5月
「三菱崎戸の能率と賃金の実態——賃金は能率の上昇に及ばない——」
- 『九州産労資料月報』No.35 p.77～81 九州産業労働科学研究所 1952年6月
「九州石炭産業はどのように発達してきたか——九州石炭産業発達史——（第一回）」
- 『九州産労資料月報』No.35 p.82～90 九州産業労働科学研究所 1952年6月
「当面する恐慌の深化と合理化の狙い——それは軍需生産推進のテコ入れとなっている」
- 『九州産労資料月報』No.36 p.1～24 九州産業労働科学研究所 1952年7月
「九州石炭産業発達史（第2回——石炭産業資本はいかにして確立したか(1)——（明治維新から明治30年代にかけて）」
- 『九州産労資料月報』No.37 p.51～56 九州産業労働科学研究所 1952年8月
「わが国の社会保障制度の現状——社会保障制度の前進の為に——」
- 『九州産労資料月報』No.38 p.49～58 九州産業労働科学研究所 1952年9月
「日本の生活水準の戦前及び国際比較」
- 『九州産労資料月報』No.39 p.29～38 九州産業労働科学研究所 1952年10月
「戦後における九州石炭産業と合理化(上)」
- 『九州産労資料月報』No.39 p.61～80 九州産業労働科学研究所 1952年10月
「B炭鉱における出炭能率と賃金分析——炭鉱労組における

調査活動の前進のために——」

『九州産労資料月報』No.40 p.63～80 九州産業労働科学研究所 1952年11月
「戦後における九州石炭産業と合理化(中)」

『九州産労資料月報』No.40 p.81～94 九州産業労働科学研究所 1952年11月
「当面する賃金闘争の前進のために」

『九州産労資料月報』No.41 p.55～92 九州産業労働科学研究所 1952年12月
「特集 炭鉱闘争の記録——63スト」(共同執筆)

『九州産労資料月報』No.42 p.1～92 九州産業労働科学研究所 1953年1月
「戦後における九州石炭産業と合理化(下)」

『九州産労資料月報』No.42 p.93～112九州産業労働科学研究所 1953年1月
「私たちは60日のストをどう闘ったか?——貝島大之浦スト批判座談会——」

『九州産労資料月報』No.43 p.89～112九州産業労働科学研究所 1953年2月
「高炭価問題の焦点とその本質——自衛生産には安い石炭を、炭鉱独占資本には最大の利潤を、その一切の犠牲をその一切の犠牲を労働者に——」

『九州産労資料月報』No.44 p.41～64 九州産業労働科学研究所 1953年3月
「炭鉱寮生は何を訴えるか——大之浦三坑K寮において——」

『九州産労資料月報』No.44 p.65～75 九州産業労働科学研究所 1953年3月
「恐慌の進展と雇用の趨勢——雇用量の低下目立つ福岡県の諸産業——」

『九州産労資料月報』No.45 p.36～41 九州産業労働科学研究所 1953年4月
「日炭高松の堅坑闘争はどう闘われたか——その経験から何を学ぶか——」

『九州産労資料月報』No.46 p.79～100九州産業労働科学研究所 1953年5月
「平和経済と失業反対闘争——飯野炭鉱を中心として——」

『九州産労資料月報』No.48 p.35～62 九州産業労働科学研究所 1953年7月
「特集 北九州水害の実態をつく

——ふるさとの山河を荒らす政治こそ問題だ——」

『九州産労資料月報』No.48 p.95～116九州産業労働科学研究所 1953年7月
「秋季闘争をめぐる問題点を截つ——炭労を中心にして——」

『九州産労資料月報』No.50 p.79～94 九州産業労働科学研究所 1953年9月

- 「『炭鉱希望退職者の実態』集計表——M T 鉱と K O 鉱の場合——」
 『九州産労資料月報』No.52 p.55～62 九州産業労働科学研究所 1953年11月
- 「八幡製鉄現業の労働力構成調査」
 『九州産労資料月報』No.52 p.63～89 九州産業労働科学研究所 1953年11月
- 「炭鉱における首切りはかく行われた——希望退職の分析——」
 『九州産労資料月報』No.54 p.1～34 九州産業労働科学研究所 1954年1月
- 「賃金に対する労資双方の考え方と対立点——炭労賃金交渉における
 双方の主張から——」
 『九州産労資料月報』No.56 p.55～73 九州産業労働科学研究所 1954年3月
- 「恐慌にゆらぐ筑豊炭田」
 『九州産労資料月報』No.58 p.1～12 九州産業労働科学研究所 1954年5月
- 「経理分析 10%賃下げを保留させたA製作所の場合——北九州——」
 『九州産労資料月報』No.60 p.19～28 九州産業労働科学研究所 1954年7月
- 「東海鋼業長崎製鋼の労働力構成及生活実態調査の集計結果——
 鉄鋼労連・九州産労の共同調査から——」（共同調査）
 『九州産労資料月報』No.63 p.101～123 九州産業労働科学研究所 1954年10月
- 「炭炭規程をめぐる問題点——中島鉱業の場合——」
 『九州産労資料月報』No.64 p.34～48 九州産業労働科学研究所 1954年11月
- 「大之浦における出炭能率と賃金——不況下における炭鉱労働者——」
 『九州産労資料月報』No.64 p.49～58 九州産業労働科学研究所 1954年11月
- 「調査・農村地帯における中小鉄鋼業の労働力構成
 ——日本鋼業宇島工場の場合——」（共同調査）
 『九州産労資料月報』No.66 p.8～18 九州産業労働科学研究所 1955年1月
- 「北九州における鉄鋼産業の労働力構成」（共同調査）
 『九州産労資料月報』No.67 p.1～56 九州産業労働科学研究所 1955年2月
- 「北九州における化学産業の労働力構成(1)
 ——三菱化成黒埼と宇部窒素——」（共同調査）
 『九州産労資料月報』No.67 p.57～70 九州産業労働科学研究所 1955年2月

「北九州における化学産業の労働力構成(2)

——三菱化成黒埼と宇部窒素——」（共同調査）

【九州産労資料月報】No.68 p.39~48 九州産業労働科学研究所 1955年3月

「炭系大手中小炭鉱のヤマ別能率と賃金一覽」

【九州産労資料月報】No.68 p.79~82 九州産業労働科学研究所 1955年3月

「石炭にみる搾取強化の実態」

【九州産労資料月報】No.70 p.54~63 九州産業労働科学研究所 1955年5月

「中小炭鉱労働者の職歴と生活(1)

——九炭労，九産労【中小炭鉱失業者の生活実態調査】より——」

【九州産労資料月報】No.70 p.73~86 九州産業労働科学研究所 1955年5月

「中小炭鉱労働者の職歴と生活（その2）

——九炭労，九産労【中小炭鉱失業者の生活実態調査】より——」

【九州産労資料月報】No.71 p.61~76 九州産業労働科学研究所 1955年6月

「中小炭鉱労働者の職歴と生活（その3）

——九炭労，九産労【中小炭鉱失業者の生活実態調査】より——」

【九州産労資料月報】No.72 p.35~48 九州産業労働科学研究所 1955年7月

「昭和30年度『経済白書』を批判する」

【九州産労資料月報】No.73 p.1~12 九州産業労働科学研究所 1955年8月

「中小炭鉱労働者の職歴と生活（その4）

——九炭労，九産労【中小炭鉱失業者の生活実態調査】より——」

【九州産労資料月報】No.73 p.55~63 九州産業労働科学研究所 1955年8月

「上新入・亀山の売山は賃金と労働条件を五割引下げた

——三菱の合理案提案と労働者——」

【九州産労資料月報】No.74 p.56~68 九州産業労働科学研究所 1955年9月

「中小企業の失業者はどのように流動しているか

——果てしない絶対的窮乏化の進行——」

【九州産労資料月報】No.75 p.27~46 九州産業労働科学研究所 1955年10月

「検炭規定をどうしたらよいか——杵島【採炭夫の検炭成績給】について」

- 『九州産労資料月報』 No.75 p.47～52 九州産業労働科学研究所 1955年10月
「中小炭鉱失業者の組織と闘争——田川地区生活防衛会議を中心に——」
- 『九州産労資料月報』 No.76 p.20～40 九州産業労働科学研究所 1955年11月
「八幡地区における下請け中小企業の状態」
- 『九州産労資料月報』 No.77 p.13～42 九州産業労働科学研究所 1955年12月
「失業地帯における婦人の坑内労働問題——中島スエさんの死をめぐる——」
- 『九州産労資料月報』 No.78 p.27～36 九州産業労働科学研究所 1956年1月
「原価表をどう分析したらよいか——ある中小炭鉱の原価表を中心に——」
- 『九州産労資料月報』 No.80 p.47～57 九州産業労働科学研究所 1956年3月
「岩屋炭鉱における出炭計画及び予想原価の分析
——中小炭鉱における搾取形態の一典型——」
- 『九州産労資料月報』 No.83 p.63～75 九州産業労働科学研究所 1956年6月
「日鉄二瀬における資本蓄積と労働強化の分析
——営業報告書と出炭能率をどう分析するか——」
- 『九州産労資料月報』 No.84 p.33～52 九州産業労働科学研究所 1956年7月
「大手筋炭鉱における検炭規程」
- 『九州産労資料月報』 No.85 p.27～36 九州産業労働科学研究所 1956年8月
「北九州工業地帯における資本と賃労働」
- 『九州産労資料月報』 No.86 p.1～19 九州産業労働科学研究所 1956年9月
「炭鉱失業の諸問題」
- 『九州産労資料月報』 No.87 p.38～79 九州産業労働科学研究所 1956年10月
「戦後労働市場と九州の農村——労農提携の条件『把握』のために——」
- 『九州産労資料月報』 No.88 p.13～45 九州産業労働科学研究所 1956年11月
「大之浦における合理化と労働者の状態」
- 『九州産労資料月報』 No.88 p.46～56 九州産業労働科学研究所 1956年11月
「国鉄志免鉱業所の賃金——国鉄経営分離との関連において——」
- 『九州産労資料月報』 No.90 p.41～56 九州産業労働科学研究所 1957年1月
「杵島炭鉱の経理分析——会社側の『経営白書』批判——」

- 【九州産労資料月報】No.91 p.1~50 九州産業労働科学研究所 1957年2月
「仕立職人の生活実態——筑豊洋服裁縫師の実態調査から——」（共同調査）
- 【九州産労資料月報】No.92 p.1~18 九州産業労働科学研究所 1957年3月
「戦前における労働者の生活と闘争（第7回）
——米騒動における労働者の闘い（福岡県大牟田市の場合）」
- 【九州産労資料月報】No.93 p.76~85 九州産業労働科学研究所 1957年4月
「戦前における労働者の生活と闘争（第8回）
——大正12年の大牟田三井系連合大争議（その1）——」
- 【九州産労資料月報】No.94 p.53~63 九州産業労働科学研究所 1957年5月
「日経連【現下の賃金政策と賃金問題】批判——反賃上げの理論をつく——」
- 【九州産労資料月報】No.96 p.1~22 九州産業労働科学研究所 1957年7月
「戦前における労働者の生活と闘争（第9回）
——大正12年の大牟田三井系連合大争議（その2）——」
- 【九州産労資料月報】No.96 p.65~78 九州産業労働科学研究所 1957年7月
「戦後炭鉱における技術合理化——労働過程の再編と搾取の強化——」
- 【九州産労資料月報】No.97 p.63~77 九州産業労働科学研究所 1957年8月
「戦前における労働者の生活と闘争（第10回）
——大正12年の大牟田三井系連合大争議（その3）——」
- 【九州産労資料月報】No.98 p.95~104九州産業労働科学研究所 1957年9月
「貝島炭鉱の経営分析——1957,9,11貝島大之浦労組給対部——」
- 【九州産労資料月報】No.99 p.39~60 九州産業労働科学研究所 1957年10月
「統計の階級性とその利用の問題点」
- 【九州産労資料月報】No.101 p.86~98九州産業労働科学研究所 1957年12月
「資本の蓄積と雇用問題」
- 【九州産労資料月報】No.102 p.35~60九州産業労働科学研究所 1958年1月
「九州産労第4回【研究大会】報告——不況の現段階と今後の見通し——」
- 【九州産労資料月報】No.103 p.1~8 九州産業労働科学研究所 1958年2月
「第4回研究大会から 春闘をめぐる若干の問題提起」

- 『九州産労資料月報』 No.107 p.15～18九州産業労働科学研究所 1958年 6月
「第 5 回労働運動研究集会報告 戦後の経済循環と過剰生産恐慌」
- 『九州産労資料月報』 No.109 p.17～34九州産業労働科学研究所 1958年 8月
「戦後の経済循環と過剰生産恐慌——恐慌と労働者階級——」
- 『九州産労資料月報』 No.110 p.5～16 九州産業労働科学研究所 1958年 9月
「戦後の経済循環と過剰生産恐慌——恐慌と労働者階級——」
- 『九州産労資料月報』 No.111 p.1～28 九州産業労働科学研究所 1958年10月
「三井鉱山の経理分析——赤字の性格について——」
- 『九州産労資料月報』 No.116 p.19～48九州産業労働科学研究所 1959年 3月
「安保条約改定と『潜在的』帝国主義復活」
- 『九州産労資料月報』 No.117 p.5～16 九州産業労働科学研究所 1959年 5月
「炭鉱失業の諸問題——大手炭鉱を中心に——」
- 『九州産労資料月報』 No.120 p.32～50九州産業労働科学研究所 1959年 8月
「合理化と雇用・失業問題」
- 『九州産労資料月報』 No.121 p.47～58九州産業労働科学研究所 1959年10月
「第 3 分科会『合理化と失業』総括報告」
- 『九州産労資料月報』 No.123 p.75～83九州産業労働科学研究所 1959年12月
「特集・三池闘争分析 三池闘争の教訓と今後の展望」（共同執筆）
- 『九州産労資料月報』 No.129 p.1～50 九州産業労働科学研究所 1960年 5月
「失業反対闘争の統一的前進のために」
- 『九州産労資料月報』 No.132 p.15～29九州産業労働科学研究所 1960年 8月
「わが国における失業政策と失業反対闘争のいくつかの問題」
- 『九州産労資料月報』 No.133 p.43～63九州産業労働科学研究所 1960年 9月
「自由化と石炭産業の合理化 第 6 回調査学校テキスト」
- 『九州産労資料月報』 No.134 p.11～21九州産業労働科学研究所 1960年10月
「時間短縮闘争の諸側面——若干の分析と問題提起」
- 『九州産労資料月報』 No.141 p.1～18 九州産業労働科学研究所 1961年 5月
「『所得倍増計画』批判——労働運動の長期的展望を確立するために——」

【九州産労資料月報】 No.143 p.1~18 九州産業労働科学研究所 1961年8月
「第7回調査学校、賃金分科会テキスト 低賃金構造打破をめぐる諸問題」

【九州産労資料月報】 No.144 p.21~38九州産業労働科学研究所 1961年9月
「第7回調査学校賃金分科会 賃金分科会の総括と報告」

【九州産労資料月報】 No.145 p.51~59九州産業労働科学研究所 1961年10月
「地域開発と労働者階級の態度——自治体闘争の問題に関連して——」

【九州産労資料月報】 No.147 p.75~94九州産業労働科学研究所 1961年12月

【九州産労時報】掲載の小論文（無署名）

「“産別”物量計算の紹介と批判」

【九州産労時報】 No.1 p.2~6 九州産業労働科学研究所 1948年12月15日

「職階制と6,300円ベース」

【九州産労時報】 No.2 p.5~7 九州産業労働科学研究所 1949年1月1日

「6,300円ベースの欺瞞性」

【九州産労時報】 No.4 p.3~5 九州産業労働科学研究所 1949年2月1日

「退職手当制度の実態——炭鉱の場合——」

【九州産労時報】 No.5 p.2~6 九州産業労働科学研究所 1949年2月15日

「6,300円ベースと既得権」

【九州産労時報】 No.6 p.9 九州産業労働科学研究所 1949年3月1日

「中小炭鉱問題の視點——九州の場合——」

【九州産労時報】 No.9 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1949年4月15日

「6,300円ベースと地方公吏」

【九州産労時報】 No.9 p.4~6 九州産業労働科学研究所 1949年4月15日

「24年度国家財政豫算の特徴」

【九州産労時報】 No.10 p.4~6 九州産業労働科学研究所 1949年5月1日

「独占資本と利潤——独占価格の問題点——」

【九州産労時報】 No.11 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1949年5月15日

- 「失業者は何人になるか——行政整理を中心に——」
『九州産労時報』 No.11 p.10～12 九州産業労働科学研究所 1949年 5月15日
- 「団体協約改悪を闘え——日鐵八幡の具体例——」
『九州産労時報』 No.12 p.9～10 九州産業労働科学研究所 1949年 6月 1日
- 「九州における農民層の分解」
『九州産労時報』 No.13 p.6～12 九州産業労働科学研究所 1949年 6月15日
- 「金属産業の危機——九州の場合——」
『九州産労時報』 No.15 p.6～8 九州産業労働科学研究所 1949年 7月15日
- 「この荒廃を見よ 九州の国鐵」
『九州産労時報』 No.16 p.4～5 九州産業労働科学研究所 1949年 8月 1日
- 「電機事業が分断されたらどうなるか？」
『九州産労時報』 No.16 p.5～6 九州産業労働科学研究所 1949年 8月 1日
- 「炭鉱未拂い金と九州の機械工業」
『九州産労時報』 No.18 p.7～10 九州産業労働科学研究所 1949年 9月 1日
- 「鉄鋼業における最近の動向——補給金打切りと
混銑率引き下げをめぐって——」
『九州産労時報』 No.19 p.1～7 九州産業労働科学研究所 1949年9月15日
- 「実質賃金は上昇したか——官廳統計批判——」
『九州産労時報』 No.20 p.11～12 九州産業労働科学研究所 1949年10月 1日
- 「失業問題の焦点」
『九州産労時報』 No.21 p.7～10 九州産業労働科学研究所 1949年10月15日
- 「賃金闘争と税金」
『九州産労時報』 No.22 p.4～6 九州産業労働科学研究所 1949年11月 1日
- 「固定資産の再評価と賃金闘争」
『九州産労時報』 No.22 p.10～12 九州産業労働科学研究所 1949年11月 1日
- 「退職金制度の性格と実態」
『九州産労時報』 No.23 p.6～9 九州産業労働科学研究所 1949年11月15日
- 「婦人労働者の地位——アジア婦人会議に寄す——」

- 『九州産労時報』 No.23 p.6~9 九州産業労働科学研究所 1949年11月15日
「24年度補正予算のからくり」
- 『九州産労時報』 No.25 p.2~5 九州産業労働科学研究所 1949年12月15日
「教宣と調査の協力体制について」
- 『九州産労時報』 No.25 p.12 九州産業労働科学研究所 1949年12月15日
「九州における金融資本の構造」
- 『九州産労時報』 No.26 p.1~8 九州産業労働科学研究所 1950年1月1日
「転換期の農業経営——49年の回顧と展望——」
- 『九州産労時報』 No.27 p.9~12 九州産業労働科学研究所 1950年1月15日
「25年度予算の問題——ドッジ・ラインの強化と労働者階級」
- 『九州産労時報』 No.28 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1950年2月1日
「賃金額別にみた労働者の分布——賃金調査の発展のために——」
- 『九州産労時報』 No.28 p.11~12 九州産業労働科学研究所 1950年2月1日
「協約闘争をいかに闘うか——経営者案の批判と闘いの方向——」
- 『九州産労時報』 No.29 p.1~6 九州産業労働科学研究所 1950年2月15日
「新型職階制の反動性——三菱電気の職階制とその批判——」
- 『九州産労時報』 No.30 p.7~12 九州産業労働科学研究所 1950年3月1日
「戦後における賃金問題の展開」
- 『九州産労時報』 No.32 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1950年4月1日
「見返資金を截つ——その従属化のテコとしての役割——」
- 『九州産労時報』 No.34 p.1~7 九州産業労働科学研究所 1950年5月1日
「東洋高圧の新給与体系」
- 『九州産労時報』 No.35 p.10~12 九州産業労働科学研究所 1950年5月15日
「機械産業の動向——その従属化の進展——」
- 『九州産労時報』 No.37 p.1~8 九州産業労働科学研究所 1950年6月15日
「産業合理化と労働災害」
- 『九州産労時報』 No.39 p.8~12 九州産業労働科学研究所 1950年7月15日
「組合活動をしばる協約——日本化成黒埼の場合——」

- 『九州産労時報』 No.40 p.12 九州産業労働科学研究所 1950年 8月 1日
「資産再評価をめぐる資本攻勢」
- 『九州産労時報』 No.41 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1950年 8月 15日
「『九州産労』の一般活動報告」
- 『九州産労時報』 No.42 p.4 九州産業労働科学研究所 1950年 9月 1日
「賃金合理化の一形態——八幡製鐵の場合——」
- 『九州産労時報』 No.42 p.5～8 九州産業労働科学研究所 1950年 9月 1日
「鐵鋼産業における合理化の進展」
- 『九州産労時報』 No.43 p.6～12 九州産業労働科学研究所 1950年 9月 15日
「最低賃金制の理論と闘争（その1）」
- 『九州産労時報』 No.44 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1950年 10月 1日
「朝鮮動乱の労働者階級に及ぼす影響」
- 『九州産労時報』 No.45 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1950年 10月 15日
「最低賃金制の理論と闘争（その2）」
- 『九州産労時報』 No.45 p.6～8 九州産業労働科学研究所 1950年 10月 15日
「合理化の理論（その1）」
- 『九州産労時報』 No.46 p.5～6 九州産業労働科学研究所 1950年 11月 1日
「合理化と労働条件の悪化——九州にみるその実態——」
- 『九州産労時報』 No.47 p.1～8 九州産業労働科学研究所 1950年 11月 15日
「合理化の理論（その2）」
- 『九州産労時報』 No.47 p.11～12 九州産業労働科学研究所 1950年 11月 15日
「職階制と職階給——産業セメントの場合——」
- 『九州産労時報』 No.48 p.7～11 九州産業労働科学研究所 1950年 12月 15日
「補正予算で税金は軽くなるか」
- 『九州産労時報』 No.49 p.7～10 九州産業労働科学研究所 1951年 1月 1日
「賃金闘争の前進のために——再び“利潤の増大と低賃金”について——」
- 『九州産労時報』 No.50 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1951年 1月 15日
「公務員8000円ベースの批判——上に厚く下にうすい職階賃金——」

- 『九州産労時報』 No.51 p.5~7 九州産業労働科学研究所 1951年2月1日
「日経連の新労務管理の方向——『新労務管理』はいわゆる『日本型労務管理』のむしかえしにすぎない——」
- 『九州産労時報』 No.52 p.5~7 九州産業労働科学研究所 1951年2月15日
「朝鮮戦争は日本経済にどう影響したか（その1）」
- 『九州産労時報』 No.53 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1951年3月1日
「26年度予算案の性格——その労働者的分析」
- 『九州産労時報』 No.53 p.4~8 九州産業労働科学研究所 1951年3月1日
「朝鮮戦争は日本経済にどう影響したか（その2）」
- 『九州産労時報』 No.54 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1951年3月15日
「『職階給へ』の移行をめざす日本パルプの賃金体系」
- 『九州産労時報』 No.55 p.8~11 九州産業労働科学研究所 1951年4月1日
「戦争景気と鉄鋼産業——八幡製鉄を中心として——」
- 『九州産労時報』 No.56 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1951年4月15日
「昇給と賃金体系の改悪——福岡製紙の場合」
- 『九州産労時報』 No.56 p.10~11 九州産業労働科学研究所 1951年4月15日
「賃上げ額算出の具体例とその批判」
- 『九州産労時報』 No.57 p.1~6 九州産業労働科学研究所 1951年5月1日
「農家の貯蓄と借金——借入れた農業資金さえ生活費に——」
- 『九州産労時報』 No.58 p.9~10 九州産業労働科学研究所 1951年5月15日
「日本板ガラスの新賃金——18,400圓の体系をつく」
- 『九州産労時報』 No.59 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1951年6月1日
「八幡製鉄の業績手当を分析する」
- 『九州産労時報』 No.60 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1951年6月15日
「炭鉱の合理化と労働者の状態——K炭坑の場合」
- 『九州産労時報』 No.60 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1951年6月15日
「日米経済協力と労働条件の低下」
- 『九州産労時報』 No.61 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1951年7月1日

- 「日本ゴムの賃金体系をつく——能率給と職階給で労働者はハサミ打ち——」
『九州産労時報』 No.62 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1951年7月15日
- 「賃金闘争の状況とその問題点——九州にみる具体例——」
『九州産労時報』 No.63 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1951年8月1日
- 「物価昂騰にたいし賃上げを組織せよ」
『九州産労時報』 No.64 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1951年8月15日
- 「朝鮮停戦と新たな合理化攻勢」
『九州産労時報』 No.65 p.6～9 九州産業労働科学研究所 1951年9月1日
- 「化学産業における臨時工——九州の場合——」
『九州産労時報』 No.66 p.8～10 九州産業労働科学研究所 1951年9月15日
- 「賃金体系の改悪はすすむ——日立製作所におけるその経過」
『九州産労時報』 No.67 p.8～10 九州産業労働科学研究所 1951年10月1日
- 「再び『日立の新賃金体系』について——職階職能による加給システム——」
『九州産労時報』 No.68 p.4～6 九州産業労働科学研究所 1951年10月15日
- 「12,500円の固定給にささえられた永田製作所の累進能率給」
『九州産労時報』 No.68 p.9～10 九州産業労働科学研究所 1951年10月15日
- 「税金はほんとうに安くなるか 減税されて苦しむ労働者・増税されて儲かる資本家」
『九州産労時報』 No.69 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1951年11月1日
- 「米・麦の統制撤廃は我々に何をもたらすか——政府の狙いとその影響——」
『九州産労時報』 No.70 p.6～7 九州産業労働科学研究所 1951年11月15日
- 「日本帝国主義の復活と再編過程」
『九州産労時報』 No.71 p.6～10 九州産業労働科学研究所 1951年12月1日
合併号（再建三周年・記念号） 15日
- 「〔特集・朝鮮動乱後の九州労働経済〕 動乱後の雇用の動き
ブームというのに増える失業——」
『九州産労時報』 No.71 p.11 九州産業労働科学研究所 1951年12月1日
合併号（再建三周年・記念号） 15日

- 「特集・動乱後の九州労働経済」 動乱後の実質賃金はどのくらい低下したか」
 『九州産労時報』 No.71 p.13~15 九州産業労働科学研究所 1951年12月1日
 合併号（再建三周年・記念号） 15日
- 「特集・動乱後の九州労働経済」 賃金形態の改悪はさらに進む」
 『九州産労時報』 No.71 p.17~18 九州産業労働科学研究所 1951年12月1日
 合併号（再建三周年・記念号） 15日
- 「賃金問題における二つの盲点——賃金要求と賃金体系について——」
 『九州産労時報』 No.72 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1952年1月1日
- 「1952年のわれわれの生活——生活はいよいよよ苦くなる——」
 『九州産労時報』 No.73 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1952年1月15日
- 「〔賃金ノート〕 賃金差の拡大を防げ」
 『九州産労時報』 No.74 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1952年2月1日
- 「日本財界人を熱狂させたモスクワ国際経済会議」
 『九州産労時報』 No.75 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1952年2月15日
- 「〔賃金ノート〕 理論生計費方式と最低賃金をめぐって」
 『九州産労時報』 No.76 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年3月1日
- 「〔賃金ノート〕 総評『賃金綱領』を大衆討議にかけよ」
 『九州産労時報』 No.77 p.7~8 九州産業労働科学研究所 1952年3月15日
- 「〔統計ノート〕 統計上の賃金は実際よりも高い
 ——『毎月勤労統計』批判——」
 『九州産労時報』 No.77 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年3月15日
- 「カッペ採炭をめぐる諸問題」
 『九州産労時報』 No.78 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1952年4月1日
- 「〔賃金ノート〕 総評『賃金綱領』をめぐって」
 『九州産労時報』 No.79 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1952年4月15日
- 「われわれは平和的経済の建設プランを持っている
 平野義太郎編『日本平和経済の構想』の紹介」
 『九州産労時報』 No.80 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1952年5月1日

「九州におけるカッペ採炭の実態」

『九州産労時報』 No.81 p.4～5 九州産業労働科学研究所 1952年5月15日

「流血メーデーの意味するもの——それをめぐる内外の世論——」

『九州産労時報』 No.82 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1952年6月1日

「〔賃金ノート〕 最低賃金と理論生計費——日本の理論生計費は
複雑すぎる——」

『九州産労時報』 No.82 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年6月1日

「極端な窮乏生活を反映したC・P・S.

——広島労研『広島市民の生活実態調査』——」

『九州産労時報』 No.83 p.6～8 九州産業労働科学研究所 1952年6月15日

「各社の現行賃金と賃金闘争状況——産業別賃金の比較——」

『九州産労時報』 No.84 p.3～5 九州産業労働科学研究所 1952年7月1日

「〔賃金ノート〕 職種別賃金の統一をすすめよ——統一賃金要求と組織問題」

『九州産労時報』 No.84 p.8 九州産業労働科学研究所 1952年7月1日

「統一賃金要求と統一闘争——中央賃金会議をめぐって——」

『九州産労時報』 No.85 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1952年7月15日

「〔賃金ノート〕 マーケット・バスケット方式をめぐって」

『九州産労時報』 No.85 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年7月15日

「九州地方にみる退職金の実態——附・年金制度の本質について——」

『九州産労時報』 No.86 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1952年8月1日

「蠢動する職場防衛運動——それは新愛労運動だ——」

『九州産労時報』 No.87 p.1～2 九州産業労働科学研究所 1952年8月15日

「〔賃金ノート〕 占領下の賃金政策

——業種別平均賃金と欺瞞的スライド制——」

『九州産労時報』 No.88 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年9月1日

「〔賃金ノート〕 賃上げ闘争と最低賃金制闘争」

『九州産労時報』 No.90 p.9 九州産業労働科学研究所 1952年10月1日

「統一労働協約闘争の前進のために」

- 『九州産労時報』 No.92 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1952年11月1日
「〔賃金ノート〕 総同盟と新産別の賃金闘争方針」
- 『九州産労時報』 No.92 p.8 九州産業労働科学研究所 1952年11月1日
「〔賃金ノート〕 石炭鉱業連盟賃下げ案の分析」
- 『九州産労時報』 No.93 p.10 九州産業労働科学研究所 1952年11月15日
「九州産労はこの四年間いかに闘ってきたか」
- 『九州産労時報』 No.94 p.3 九州産業労働科学研究所 1952年12月1日
（再建四周年・記念号） 15日
「B炭鉱における財務諸表と原価分析」
- 『九州産労時報』 No.95 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1953年1月1日
「入昇坑時間の短縮と作業量の引上げ——日炭高松の合理化攻勢——」
- 『九州産労時報』 No.97 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1953年2月1日
「炭労ストの自己批判と組織強化活動」
- 『九州産労時報』 No.98 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1953年2月15日
「炭鉱合理化と農村出身者の増加——大之浦炭坑の場合——」
- 『九州産労時報』 No.99 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1953年3月1日
「九州炭鉱にみる合理化と出炭能率——能率上昇の二つの型——」
- 『九州産労時報』 No.100 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1953年3月15日
「高炭價問題と合理化攻勢——九州各山に労働条件の切下げが目立つ——」
- 『九州産労時報』 No.102 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1953年5月1日
「堅坑問題にたいしいかに闘うか——日炭高松の経験から——」
- 『九州産労時報』 No.103 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1953年5月15日
「炭鉱における首切りの形態——闘いの方向をつかむために——」
- 『九州産労時報』 No.106 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1953年7月1日
「MSAは日本に何をもたらすか——くるものは戦争と貧困——」
- 『九州産労時報』 No.107 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1953年7月15日
「総評大會の成果を確認しましょう」
- 『九州産労時報』 No.108 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1953年8月1日

「朝鮮休戦と日本経済」

『九州産労時報』 No.109 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1953年 8月15日

「災害関係諸立法の限界」

『九州産労時報』 No.110 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1953年 9月 1日

「日産闘争から何を學ぶか——職場組織の強化こそ闘いの基礎——」

『九州産労時報』 No.111 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1953年 9月15日

「紙パルプにおける合理化の実態——連続操業と労働強化——」

『九州産労時報』 No.113 p. 九州産業労働科学研究所 1953年10月15日

「T炭鉱における希望退職者の分析」

『九州産労時報』 No.115 p.4~6 九州産業労働科学研究所 1953年11月15日

「出稼ぎ労働者の分析（その1）——鹿児島県について——」

『九州産労時報』 No.116 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1953年12月 1日

「特集・労働力と過剰人口問題」

『九州産労時報』 No.117 p.1~12 九州産業労働科学研究所 1954年 1月 1日

「八幡地区零細工場における労働者の実態」

『九州産労時報』 No.118 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1954年 1月15日

「部分スト・時限ストの問題 闘いは形の上だけでは前進しない」

『九州産労時報』 No.120 p.10~11九州産業労働科学研究所 1954年 2月15日

「炭労ストの成果と教訓」

『九州産労時報』 No.122 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1954年 3月15日

「中小炭鉱にみる合理化の潜行手段——O炭鉱の場合——」

『九州産労時報』 No.122 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1954年 3月15日

「堅坑開さく計畫を分析する——それは中小鉱と労働者を犠牲にする——」

『九州産労時報』 No.123 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1954年 4月 1日

「炭労闘争の國際的意義——世界労連・三井の闘争を高く評價——」

『九州産労時報』 No.124 p.8 九州産業労働科学研究所 1954年 4月15日

「靱井炭坑における共同管理とその問題点

——共同管理における労組の視点——」

『九州産労時報』No.125 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1954年5月1日
「筑豊地帯における失業者の状態——この破局的様相をどうする——」

『九州産労時報』No.126 p.10~11九州産業労働科学研究所 1954年5月15日
「石炭産業における再編成の進行——石炭独占資本の独占強化——」

『九州産労時報』No.131 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1954年8月1日
「恐慌下における大手炭鉱労働者——日鐵二瀬にみる——」

『九州産労時報』No.133 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1954年9月1日
「恐慌下における大手炭坑労働者——その2・杵島の場合——」

『九州産労時報』No.134 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1954年9月15日
「炭鉱労働者の闘争とその発展方向——闘いをどう一歩前進させるか——」

『九州産労時報』No.135 p.1~6 九州産業労働科学研究所 1954年10月1日
「住友忠隈における職場闘争——炭鉱賃金の盲点をつく闘い——」

『九州産労時報』No.136 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1954年10月15日
「若松地区中小企業労働者の生活状態（その1）

——東海鋼業労働者の実態調査から——」（共同調査）

『九州産労時報』No.137 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1954年11月1日
「若松地区中小企業労働者の生活状態（その2）

——東海鋼業労働者の実態調査から——」（共同調査）

『九州産労時報』No.138 p.8~11九州産業労働科学研究所 1954年11月15日
「炭鉱における下請組作業の実態——その収奪のからくり——」

『九州産労時報』No.143 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1955年2月15日
「採炭夫からの搾取はどれだけ強化されてきたか？（住友潜龍）」

『九州産労時報』No.144 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1955年3月1日
「炭鉱失業者の生活状態——九炭労『失業者実態調査』メモから——」

『九州産労時報』No.147 p.8~11九州産業労働科学研究所 1955年4月15日
「中小炭鉱失業者の生活実態（第1次中間報告・1955年5月）」

『九州産労時報』No.149 p.1~12九州産業労働科学研究所 1955年5月15日
「30年度予算案と国民生活 増大する軍事費と減少する民生安定費」

『九州産労時報』 No.150 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1955年6月1日
「中小企業労働者の組織と闘争——八幡地区の成果を含めて——」

『九州産労時報』 No.153 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1955年7月15日
「安全運動は何をねらうか? 生産性向上運動との関連を重視せよ」

『九州産労時報』 No.153 p.4~5 九州産業労働科学研究所 1955年7月15日
「総評の『運動方針』はいかに前進したか
——生活と平和を守るための統一を——」

『九州産労時報』 No.154 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1955年8月1日
「賃金体系の改訂と職制の強化——日本パルプの機構・賃金体系改革（紙パ調査）」

『九州産労時報』 No.155 p.6~8 九州産業労働科学研究所 1955年8月15日
「緊縮政策は失業と貧困への道——『労働白書』は告発する——」

『九州産労時報』 No.156 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1955年9月1日
「人権闘争になった小倉炭鉱争議——近江絹糸・炭鉱版——」

『九州産労時報』 No.156 p.10~11九州産業労働科学研究所 1955年9月1日
「中小炭鉱問題を理解するために——その二重性格をめぐって——」

『九州産労時報』 No.158 p.1~6 九州産業労働科学研究所 1955年10月1日
「炭鉱失業者と摂取栄養量——岩屋炭鉱失業者の栄養調査から——」

『九州産労時報』 No.160 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1955年11月1日
「アメリカ式労務管理の正体(上)——『生産性向上』運動との関連において——」

『九州産労時報』 No.161 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1955年11月15日
「アメリカ式労務管理の正体(下)——『生産性向上』運動との関連において——」

『九州産労時報』 No.162 p.10~13九州産業労働科学研究所 1955年12月1日
(合併号) 12月15日

「大手・中小炭鉱労働者の統一行動とその条件（これは去る12月2日、
九炭労教宣部長会議における戸木田所員の講演要旨である）」

【九州産労時報】No.163 p.4~8 九州産業労働科学研究所 1956年1月1日
「希望退職募集後の出炭能率と賃金——三菱H鉱（筑豊）の場合——」

【九州産労時報】No.164 p.6~7 九州産業労働科学研究所 1956年1月15日
「31年度予算案はどう組立てられているか」

【九州産労時報】No.165 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1956年2月1日
「合理化計画にどう対処するか——三菱上山田の操業計画を検討する——」

【九州産労時報】No.166 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1956年2月15日
「操業計画にたいしどう対処するか(続)——三菱上山田の場合——」

【九州産労時報】No.167 p.5~7 九州産業労働科学研究所 1956年3月1日
「労働者の生活と税金——減税闘争など対政府闘争を重視せよ——」

【九州産労時報】No.168 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1956年3月15日
「再軍備下における日本労働者階級の状態——とくに臨時工を重点に——」

* 栗山彌六（八幡製鉄現業労働組合長）署名で発表

【九州産労時報】No.169 p.1~12 九州産業労働科学研究所 1956年4月1日
「古河目尾における出炭能率と賃金——われわれはどれだけ労働強化され、賃金を切下げられてきたか——」

【九州産労時報】No.171 p.5~7 九州産業労働科学研究所 1956年5月1日
「石炭産業と多角経営——石炭産業の危機は多角経営で切り抜けられるか——」

【九州産労時報】No.172 p.5~8 九州産業労働科学研究所 1956年5月15日
「優良坑への集中生産と労働災害（優良坑での災害増加を警戒せよ）」

【九州産労時報】No.175 p.8~10 九州産業労働科学研究所 1956年7月1日
「大会社の3月期決算を検討する——独占資本の利益は増大している——」

【九州産労時報】No.176 p.1~3 九州産業労働科学研究所 1956年7月15日
「八幡製鉄における生産性向上と要員問題」

【九州産労時報】No.177 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1956年8月1日
「大峯炭鉱における既得権防衛闘争の諸問題

——その1,『要求の形態』について——」

【九州産労時報】No.179 p.8~9 九州産業労働科学研究所 1956年9月1日

「石炭産業の技術的合理化と労働問題（その1）」

『九州産労時報』No.180 p.1～6 九州産業労働科学研究所 1956年9月15日

「大峯炭鉱における組織防衛闘争

——その2、職場における闘争の強化と統一問題——」

『九州産労時報』No.181 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1956年10月1日

「石炭産業の技術的合理化と労働強化(続)」

『九州産労時報』No.181 p.6～10 九州産業労働科学研究所 1956年10月1日

「大峯炭鉱における組織防衛闘争

——その3、大峯労組を軸とする炭労の統一闘争——」

『九州産労時報』No.182 p.4～8 九州産業労働科学研究所 1956年10月15日

「新坑口開設による通勤時間の延長をどう考えるか」

『九州産労時報』No.184 p.4～5 九州産業労働科学研究所 1956年11月15日

「労務管理と労働者」

『九州産労時報』No.185 p.10～12九州産業労働科学研究所 1956年12月15日

(12月1日, 12月15日合併号)

「一千億『減税』と賃闘との関係

——一千億減税は賃闘の抑圧をねらっている——」

『九州産労時報』No.187 p.3～4 九州産業労働科学研究所 1957年1月15日

「オートメーションの諸問題」

『九州産労時報』No.188 p.6～9 九州産業労働科学研究所 1957年2月1日

「最近の雇用情勢と臨時工・中小企業労働者問題——二つの問題提起——」

『九州産労時報』No.189 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1957年2月15日

「32年度予算の実態——“千億減税, 千億施策”のからくり——」

『九州産労時報』No.190 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1957年3月1日

「増産体制下の石炭鉱業」

『九州産労時報』No.191 p.10～11

九州産業労働科学研究所 1957年3月15日

「国鉄志免払下げをめぐる問題点——志免労組の反対理由から——」

- 【九州産労時報】 No.192 p.10～11九州産業労働科学研究所 1957年4月1日
「われわれの賃金理論 八幡製鉄現業労組」
- 【九州産労時報】 No.194 p.1～12九州産業労働科学研究所 1957年5月1日
「定期昇給制度と労働組合——M労組『賃金集会』における事務局的報告から——」
- 【九州産労時報】 No.198 p.1～4九州産業労働科学研究所 1957年7月1日
「幸袋製作所の生産報償給——そのカラクリをつく——」
- 【九州産労時報】 No.200 p.5～6九州産業労働科学研究所 1957年8月1日
「日経連の『資本蓄積強行論』批判(上)
——統『現下の賃金政策と賃金問題』——」
- 【九州産労時報】 No.201 p.10～12九州産業労働科学研究所 1957年8月15日
「日経連の『資本蓄積強行論』批判(下)
——統『現下の賃金政策と賃金問題』——」
- 【九州産労時報】 No.202 p.9～11九州産業労働科学研究所 1957年9月1日
「企業組合主義から産業別組織への脱皮について」
- 【九州産労時報】 No.204 p.10～12九州産業労働科学研究所 1957年10月1日
「中小炭鉱と長期計画闘争——終掘にどう対処するか——」
- 【九州産労時報】 No.206 p.9～12九州産業労働科学研究所 1957年11月1日
「大企業における資本蓄積と雇用問題」
- 【九州産労時報】 No.209 p.5～9九州産業労働科学研究所 1958年1月1日
「戦後日本の低賃金構造(1)——低賃金基盤についての覚書——」
- 【九州産労時報】 No.210 p.5～7九州産業労働科学研究所 1958年1月15日
「炭労の統一闘争はどのように前進したか——とくに賃金闘争と合理化反対闘争の過程で——」
- 【九州産労時報】 No.212 p.1～5九州産業労働科学研究所 1958年2月15日
「不況・賃闘・政策転換——当面する労働運動の課題——」
- 【九州産労時報】 No.215 p.1～6九州産業労働科学研究所 1958年4月1日
「日経連の新賃金政策批判(上)——『当面の日本経済と賃金問題』——」

『九州産労時報』No.216 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1958年4月15日
「日経連の新賃金政策批判(下)——『当面の日本経済と賃金問題』——」

『九州産労時報』No.217 p.7~10 九州産業労働科学研究所 1958年5月1日
「春季賃闘が提起した若干の問題」

『九州産労時報』No.219 p.1~4 九州産業労働科学研究所 1958年6月1日
「炭闘争の評価と今後の問題——炭労の強さとその限界の問題——」

『九州産労時報』No.221 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1958年7月1日
「総評の新運動方針(案)にたいする意見——全体を通ずる問題点——」

『九州産労時報』No.222 p.1~7 九州産業労働科学研究所 1958年7月15日
「当面する労務管理の諸問題——労務管理の変化をどう理解するか——」

『九州産労時報』No.223 p.1~8 九州産業労働科学研究所 1958年8月1日
「職場闘争をめぐる諸問題——福銀従組『組合学校』での講義から——」

『九州産労時報』No.224 p.1~7 九州産業労働科学研究所 1958年8月15日
「九州における炭鉱労働者の状態

——強行のシワヨセはどう現われているか——」

『九州産労時報』No.229 p.9~11 九州産業労働科学研究所 1958年11月1日
(1部8ページ)

「恐慌下の教宣における問題点——春闘教宣の弱点をどう克服するか——」

『九州産労時報』No.230 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1958年11月15日
「座談会：九産労十年を回顧する——再建の当初を中心として——」

〈出席者〉	九州大学助教授	正田誠一
	元九州石炭復興会議事務局長	我那覇生隆
	日本板硝子労組書記長	末吉嘉雄
	八幡製鉄労組教宣部長	中井 貢
	極東製作所労組組合長	松尾九十九
	旭硝子牧山労組副組合長	宮川清成
	杵島炭鉱労組給与部次長	江副敏夫
	九州産労事務局長	戸木田嘉久

九州産労事務局次長 原 嘉彦

- 【九州産労時報】No.231 p.9～17 九州産業労働科学研究所 1958年12月15日
「最近の失業をめぐってのいくつかの問題——技術革新は失業問題に
どのような特徴をあたえたか——」
- 【九州産労時報】No.231 p.18～23九州産業労働科学研究所 1958年12月15日
「不況下の賃闘の困難をどう克服するか——若干の疑問に答える——」
- 【九州産労時報】No.233 p.1～9 九州産業労働科学研究所 1959年1月15日
「日経連の総評『賃金白書』批判に対する反批判(1)」
- 【九州産労時報】No.234 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1959年2月1日
「日経連の総評『賃金白書』批判に対する反批判(2)」
- 【九州産労時報】No.235 p.6～9 九州産業労働科学研究所 1959年2月15日
「日経連の総評『賃金白書』批判に対する反批判(3)」
- 【九州産労時報】No.236 p.5～8 九州産業労働科学研究所 1959年3月1日
「炭鉱の労資関係を規程するもの——石炭経協山田氏の発言に対する批判——」
- 【九州産労時報】No.237 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1959年3月15日
「春闘における闘争体制——統一行動を阻むもの——」
- 【九州産労時報】No.241 p.8～10 九州産業労働科学研究所 1959年5月15日
「炭鉱合理化その問題点は何か？」
- 【九州産労時報】No.242 p.5～7 九州産業労働科学研究所 1959年6月1日
「炭鉱合理化と独占集中の方向——炭鉱合理化の問題点(2)」
- 【九州産労時報】No.243 p.9～11 九州産業労働科学研究所 1959年6月15日
「志免拂下げ反対闘争——その本質と指導の方向について——」
- 【九州産労時報】No.244 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1959年7月1日
「志免闘争の当面する課題——闘争の弱点をどう克服するか——」
- 【九州産労時報】No.245 p.9～11 九州産業労働科学研究所 1959年7月15日
「資本家はなぜ合理化を進めるのか——鉄鋼業における三つの条件——」
- 【九州産労時報】No.246 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1959年8月1日
「炭鉱危機と社会化問題」

- 『九州産労時報』 No.249 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1959年9月15日
 「“総評大会”特集 政党支持問題の意味するもの」
- 『九州産労時報』 No.250 p.2～5 九州産業労働科学研究所 1959年10月1日
 「特集・低賃金と失業 産業別賃金綱領の問題と賃金闘争の方向」
- 『九州産労時報』 No.254 p.18～20九州産業労働科学研究所 1959年12月1日
 (合併号) 12月15日
 「新しい情勢と労働者階級——とくに安保闘争を中心に——」
- 『九州産労時報』 No.255 p.2～5 九州産業労働科学研究所 1960年1月1日
 「炭鉱合理化闘争の新しい展開」
- 『九州産労時報』 No.255 p.6～8 九州産業労働科学研究所 1960年1月1日
 「三池闘争における『デマ宣伝』を批判する」
- 『九州産労時報』 No.259 p.5～8 九州産業労働科学研究所 1960年3月1日
 「自由化とアメリカ資本の導入」
- 『九州産労時報』 No.261 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1960年4月1日
 「失業問題と反失業闘争——筑豊地区失業者の闘いから——」
- 『九州産労時報』 No.262 p.4～7 九州産業労働科学研究所 1960年4月15日
 「主要商品の国際競争力と自由化——附・自由化と労働者階級——」
- 『九州産労時報』 No.264 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1960年5月15日
 「安保と三池闘争をいかに強化するか——総評大会を傍聴して——」
- 『九州産労時報』 No.267 p.6～9 九州産業労働科学研究所 1960年7月1日
 「炭鉱労働運動の当面する課題についての『覚書』」
- 『九州産労時報』 No.269 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1960年8月1日
 「34年度『労働白書』批判——野放図な欺瞞的楽観論——」
- 『九州産労時報』 No.270 p.1～3 九州産業労働科学研究所 1960年8月15日
 「〔総評大会の討論から〕産業別組織をめぐる討論について」
- 『九州産労時報』 No.272 p.10～12九州産業労働科学研究所 1960年9月15日
 「矛盾を深める『減税』論」
- 『九州産労時報』 No.275 p.4～6 九州産業労働科学研究所 1960年11月1日

「構造的改革と労働者階級を特集するにあたって」

【九州産労時報】No.277 p.2～3 九州産業労働科学研究所 1960年12月15日

「構造的改革をどうとりあぐべきか」

【九州産労時報】No.277 p.4～7 九州産業労働科学研究所 1960年12月15日

「エネルギー従属論と国有化問題(1)——仁科正夫氏に答える——」

【九州産労時報】No.277 p.13～16九州産業労働科学研究所 1960年12月15日

「エネルギー従属論と国有化問題(2)——仁科正夫氏に答える——」

【九州産労時報】No.278 p.10～11九州産業労働科学研究所 1961年1月1日

「公務賃金の理論的諸問題」

【九州産労時報】No.289 p.9～11 九州産業労働科学研究所 1961年6月15日

「所得倍増計画のからくり——独占へ奉仕する『自己蓄積』の

促進策と『鉱業地帯造成』策——」

【九州産労時報】No.290 p.1～5 九州産業労働科学研究所 1961年7月1日

「合理化反対でフランス炭鉱労働者との統一行動に起つ日本炭労」

【九州産労時報】No.293 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1961年8月15日

「労働力『不足』と低賃金構造——低賃金構造は打破されつつあるか——」

【九州産労時報】No.293 p.5～7 九州産業労働科学研究所 1961年8月15日

「北九州工業地帯の展開と課題(1)

——北九州労働運動の長期的展望のために——」

【九州産労時報】No.295 p.1～4 九州産業労働科学研究所 1961年9月15日

「北九州工業地帯の展開と課題(2)——北九州労働運動の長期的展望のために

——」

【九州産労時報】No.296 p.4～7 九州産業労働科学研究所 1961年10月1日

「北九州の工業地帯の展開と課題(3)

——北九州労働運動の長期的展望のために——」

【九州産労時報】No.297 p.9～12 九州産業労働科学研究所 1961年10月15日

「『時報』300号の歴史と教訓——400号へむけての前進のために——」

【九州産労時報】No.300 p.5～15 九州産業労働科学研究所 1961年12月15日

「1962年の経済動向について——不況を『宣伝』とみてよいのか——」

『九州産労時報』 No.306 p.1~5 九州産業労働科学研究所 1962年3月15日

書 評

「書評 向坂逸郎篇『三井日記』」

『読書の友』 1962年1月5日

「書評 『日本経済分析』第13集 棚橋泰助『石炭政策転換闘争の諸問題』」

『読書の友』 1962年7月5日

「書評 『講座・中小企業・第二巻——独占資本と中小企業』」

『三田学会雑誌』第53巻第10・11合併号 p.71~76 1964年5月

「書評 島津千利世編『合理化と婦人労働者』」

『読書の友』 1965年4月10日

「『労働組合運動の理論』（内容解説）第1巻労働組合の役割

I. 日本の労働組合——その過去・現在・未来」

『労働組合運動の理論』（内容解説パンフ）p.8 1969年8月

「書評 高木督夫、深見謙介著『賃金体系と労働組合』（上・下）」

「赤旗」 1974年6月3日

「書評 黒川俊雄著『現代の賃金理論』」

「赤旗」 1976年12月27日

「書評 戸田慎一郎著『現代資本主義論』（野呂栄太郎賞受賞作）」

「赤旗」 1977年5月20日

「書評 『堀江正規著作集』」

「労働運動』 No.137 p.208~209 大月書店 1977年5月

「特集 青年活動家への理論学習のすすめ——『堀江正規著作集』（全6巻）

完結によせて——」

『経済』 No.163 p.222~231 新日本出版社 1977年11月

「〈読書案内〉前川嘉一・西村豁通『労働運動の国民的課題』」

- 『労働運動』 No.165 p.228～229 新日本出版社 1979年9月
 「読書案内 上田耕一郎著『現代日本と社会主義への道』」
 『経済』 No.194 p.132～135 新日本出版社 1980年6月
 「書評紹介 『経済』 5～7月号 現代経済学を学ぶ——」
 『学生新聞』 1981年7月8日
 「木元進一郎編『現代の日本企業と人事管理』
 長谷川博編『現代日本企業と労使関係』」
 『労働法律旬報』 第1028号 p.20～21 労働旬報社 1981年7月中旬
 「書評 布施鉄治編『地域産業変動と階級・階層』」
 「赤旗」 1982年5月10日
 「書評 元島邦夫著『大企業労働者の主体形成』」
 『社会科学の方法』 p.1～7 No.161 お茶の水書房 1982年11月
 「新訳『資本論』第2分冊を読んで——現代の労働者状態を考える——」
 『経済』 No.229 p.150～156 1983年5月
 「書評 藤本武著『国際比較——日本の労働条件』」
 『経済』 No.260 p.280 新日本出版社 1985年1月
 「労働者の確かな力を示す——『日本の労働組合運動』刊行と
 その反響によせて」
 「赤旗」 1985年1月21日
 「『戊辰物語』を読む」
 『ECON』立命館大学経済学部広報紙編集委員会 1986年1月10日
 「書評 人生と学問の姿勢鮮明に——塩田庄兵衛『京都にて——
 1974～87年』を読む」
 「赤旗」 1987年5月18日
 「塩田庄兵衛『京都にて』を読む」
 『平野文庫』 No.25 p.7～8 1987年6月20日
 「書評 中村孝俊『現代日本資本主義』」
 『経済』 No.553 p.208 1987年9月

短評と随想

- 「農村は困っている——A村の調査から」
『自由人』No.21 自由人協会 1947年9月20日
- 「革命と反革命——「勤労農民」への路——」
「九州大学新聞」 1949年6月1日
- 「税金は安くなるか——シャープ勧告をめぐって——」
「統一戦線」 全九州労働組合会議 1949年9月10日
- 「ポンド切下げと日本への影響」
「統一戦線」 全九州労働組合会議 1949年10月1日
- 「協同研究の問題点——小さな経験の中から——」
「九州大学新聞」 1954年4月25日
- 「セツトルメントの調査について」
「九州大学セツトルメントニュース」 1954年5月4日
- 「生産性向上運動に対する二つの反論」
「九州大学新聞」 1956年10月25日
- 「組織票の取合いと政治活動の自由の軽視——革新政党と労組へ苦言する——」
「九州大学新聞」 1958年6月10日
- 「今年の労働運動にあらわれた特徴点」
「ねっふう」 八幡製鉄労働組合 1958年12月15日
- 「物価はなぜ上がりつづけるか——または独占価格のつり上げ——」
「香里まなざし新聞」 1962年12月10日
- 「石炭危機の“根っこ”」
「立命館大学新聞」 1962年12月11日
- 「労働運動における修正主義理論——『構造改革』論のその後——」
「読書の友」 1963年1月15日
- 「国鉄のキップ」

- 「立命館学園新聞」 1965年5月1日
- 「労働災害と部落問題」
- 「立命館学園新聞」 1965年7月1日
- 「経済危機の現局面と国政策」
- 「立命館大学経済学会会報」 1966年7月7日
- 「牛肉と市民生活」
- 「立命館学園新聞」 1966年11月11日
- 「経済学——古典から謙虚に学ぶ——」
- 「学生新聞」 1968年4月3・10日
- 「一冊の岩波文庫——学生諸君に言いたい“昔がたり”」
- 『経済学会会報』前期報告号，第30号 p.56～58
- 立命館大学経済学会学生委員会 1968年7月
- 「経済学への私の道」
- 『立命館大学経済学会学生委員会会報』 新入生歓迎号 p.62～64
- 1971年3月
- 「『九大社研』再建のころ」
- 「福岡民報」 1974年1月20日
- 「バリ通信=50日間のPTTスト」
- 『学習の友』No.258 p.61～64 1975年2月
- 「＜バリ通信①＞ フランスの青年労働者」
- 『労働運動』No.111 p.196～200 1975年3月
- 「海外だより フランスの物価と税金」
- 『経済』No.131 p.120～123 1975年3月
- 「＜バリ通信②＞ CGTの労働組合学校」
- 『労働運動』No.113 p.193～199 1975年5月
- 「＜バリ通信③＞ CGTの芸能労働組合」
- 「＜バリ通信④＞ 堀江正規先生への返信」
- 『労働運動』No.114 p.159～167 1975年6月

- 「＜バリ通信⑤＞ メーデー前後の悲しみと怒り」
 『労働運動』 No.115 p.172～177 1975年 7月
- 「〔海外情報〕 フランス 失業反対と雇用防衛のたたかい」
 『経済』 No.135 p.71～77 1975年 7月
- 「フランス留学雑記」
 『立命館学園広報』＜留学紀行＞ 59号 2p. 1975年11月20日
- 「〔新春ずいそう〕 棒パンを半分にして買う話」
 『学習の友』 No.269 p.7～8 1976年 1月
- 「座談会 '76経済情勢と関いの展望」
 高橋昭三, 戸木田嘉久, 野村秀和, 前川恭一
 「京都民報」 1976年 1月11日
- 「私の古いスクラップから」
 「会報」 No.4 立命館大学ラグビー部OB会 1976年 3月
- 「バルザックの『人間喜劇』によせて」
 『学生委員会会報』 新入生歓迎号, 立命館大学経済学会学生委員会
 1976年 4月
- 「労働時間ヌキで余暇語れぬ」
 「京都新聞」 1977年 1月 1日
- 「仏蘭西雑記」
 『りつめい』 No.12 (通巻第82号) 立命館大学校友会 2p.
 1977年 3月20日
- 「激動の底に経済」
 「立命館大学新聞」 No.317 1977年 4月 8日
- 「労働問題研究の課題によせて——レーニンの一句から——」
 『経済科学通信』 No.22 p.1～2 基礎経済科学研究所 1978年 6月
- 「インタビュー 講座・今日の日本資本主義 (大月書店)」
 『蒼穹』 No.15 p.4～5 立命生協書籍委員会 1981年12月14日
- 「明日ではおそすぎる 平和と民主主義のための行動を」

- 「京都学習新聞」No.32 京都労働者学習協議会 1983年10月17日
「パリのシェマール通りによせて」
- 「京都学習新聞」No.33 京都労働者学習協議会 1983年11月17日
「資本論学習会終了式あいさつ それでも歴史法則は貫徹する」
- 「京都学習新聞」No.34 京都労働者学習協議会 1983年12月17日
「35時間労働と西独スト」
- 「日高教情報」No.948 日本高等学校教員組合 1984年4月21日
「生活時間の国際比較」
- 「日高教情報」No.949 日本高等学校教員組合 1984年5月21日
「現代学問のすすめ」
- 『学園通信』No.45 立命館大学 1986年4月28日
〔追悼のことば〕
- 「追悼」井上晴丸経済学部教授（現物不明）
- 「追悼」小田美奈穂学校法人立命館理事長（現物不明）
- 「短くはなかったおつきあい」『愧なきを期す——相沢先生の人と生涯』
p.160~163 「追悼・相沢秀一」刊行会 1984年8月
- 「堀江さんの仕事はどのようにうけつがれているか」『あれから10年、
堀江正規さんをしのぶ』p.23~48
「堀江正規さんをしのぶ会」編 1985年8月25日
- 「湯浅さんの思い出」『ハツ手が冬を——湯浅克孝、その人と活動』
p.202~206 同編集委員会 1986年8月
- 「1969年冬の季節——武藤先生の思い出」『回想の武藤守一』
p.108~117 回想の武藤守一刊行委員会 1986年9月
- 「追悼：中林賢二郎先生 理論的業績を後世に」
『賃金と社会保障』No.932 p.53 労働旬報社 1986年2月下旬
- 「追悼 中林賢二郎さんの業績をしのぶ」
『経済』No.264 p.292~293 1986年4月
- 「中林賢二郎さんの業績をしのぶ」『追悼 中林賢二郎』

- 追悼文集刊行委員会編 p.36～42 労働旬報社 1987年2月11日
「正田先生と労働運動論——その人と業績をしのいで——」
正田誠一著『九州石炭産業史論』p.329～335
九州大学出版会 1987年4月20日
- 「弔辞」
『惜春』 故斉藤政治君追悼文集 p.3～4 文理閣 1987年4月26日
「私が立命にきたころの今田さん」
『今田博之，信之』p.71～74 今田範子編 ミネルヴァ書房 1987年7月7日
(以上，1989年3月末現在)